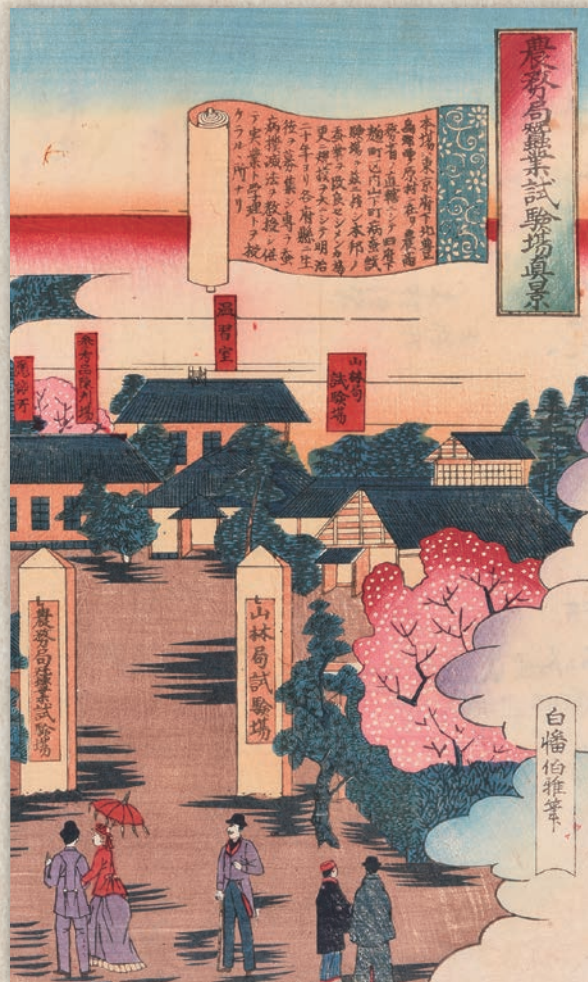


# 農工通信

No. 102

2022.01



The Graduates' Association of  
Tokyo University of  
Agriculture and Technology



一般社団法人東京農工大学同窓会



<https://tuat-dousoukai.org/>

# 農工通信 No.102

## Contents

### I 養蚕の技術指導で一役 ～大河ドラマ「青天を衝け」エピソード

- |                           |           |         |   |
|---------------------------|-----------|---------|---|
| 1. 青天を衝いた渋沢栄一翁            | 須関（角田） 浩文 | 蚕糸 S58  | 4 |
| 2. NHK 大河ドラマ「青天を衝け」への撮影協力 | 横山 岳      | 蚕糸院 S61 | 5 |

### II 心に浮かぶ若かりし日の思い出

- |                       |           |         |    |
|-----------------------|-----------|---------|----|
| 1. 我が人生               | 鈴木 昌康     | 林学 S31  | 7  |
| 2. 樗寮の思い出             | 里 具洋      | 機械 S46  | 8  |
| 3. 卒業後のお遍路さん？         | 管野 善則     | 化工院 S52 | 8  |
| 4. 学生時代の思い出           | 能美（岩澤） 寛子 | 農化 S53  | 9  |
| 5. 永遠の友達              | 松村 一郎     | 環保 S55  | 9  |
| 6. 林学科入学により導かれたその後の進路 | 坂口 浩一郎    | 林学 S58  | 10 |

### III 定年後を支える豊富な社会経験

- |                     |       |         |    |
|---------------------|-------|---------|----|
| 1. 九十年をふり返る         | 中村 典郎 | 農化 S28  | 11 |
| 2. 我が人生はマザー・コンプレックス | 八島 茂夫 | 農工 S37  | 12 |
| 3. 私にとっての農工大        | 糸数 剛  | 農工 S45  | 12 |
| 4. 臨床獣医師を目指す若き学生さんへ | 鈴木 清志 | 獣医 S47  | 13 |
| 5. 再び学びの場へ          | 小林 文博 | 機械 S50  | 13 |
| 6. 同窓会事務局長退任        | 池谷 紀夫 | 農学院 S52 | 14 |

### コラム〈苦難を乗り越えて 1〉

- |                               |           |        |    |
|-------------------------------|-----------|--------|----|
| 2021年2月『鳥インフルエンザ』被害に遭った義弟の養鶏場 | 鈴木（奥田） 一郎 | 農学 S47 | 15 |
|-------------------------------|-----------|--------|----|

### IV 目下 第一線で奮闘中

- |                     |              |          |    |
|---------------------|--------------|----------|----|
| 1. はじめてのオーダーメイド     | 石田 博文        | 林学 S57   | 16 |
| 2. ただいま帰りました。       | 青木 康浩        | 生産博 H 3  | 16 |
| 3. 農工大での貴重な経験と今の私   | 松浦 康次        | 機シス院 H 9 | 17 |
| 4. 挑戦の先に、成長あり       | Vo Dong Vien | 応化院 H16  | 18 |
| 5. 大学教員になって：農工大との違い | 箱山 智之        | 機シス博 H28 |    |
|                     | 箱山（関口） 千春    | 機シス博 H31 | 18 |

### コラム〈苦難を乗り越えて 2〉

- |                   |       |        |    |
|-------------------|-------|--------|----|
| 東日本大震災からの海岸防災林の再生 | 佐伯 明広 | 林産 H 3 | 19 |
|-------------------|-------|--------|----|

### V 海外で喜びと感動に浸る

- |                        |          |         |    |
|------------------------|----------|---------|----|
| 1. JICA インド養蚕プロジェクト・余話 | 小嶋 桂吾    | 製糸 S42  | 20 |
| 2. タイムマシンに乗って          | 片山 克己    | 植防 S53  | 21 |
| 3. 原点はホルチン沙地           | 岡（山下） 真里 | 自然院 H19 | 21 |

## VI 実体験から思案を巡らす

1. 大学生への就活支援、キャリア育成を考える	深水 智明	織工 S38	23
2. 「みどり」のチカラを社会課題の解決に活かす	佐藤 留美	林学 H5	24

## VII コロナ禍でも気概を持って過ごす

1. 私のコロナ体験	鈴木 敏明	農化 S39	25
2. コロナ禍に思う	服部 武弘	農化 S39	26
3. コロナ禍。日本の食料確保は大丈夫か！	前之園 孝光	獣医 S44	26
4. ステイホームの一考察	芳賀 伸	林学 S47	27
5. 福井県のコロナ対応	新海 隆介	環・資 H12	28

## VIII 尽きない興味

1. “湘南ゴールド” 物語	真子 正史	農学院 S43	29
2. ノーベル賞雑感	横山 定治	農化院 S46	29
3. ふるさとの偉人	西村 寿	農工 S50	30
4. 少林寺拳法部 OB 会「拳友会」の活動ご紹介	間野 大樹	機シス博 H12	31

## キャンパス便り

1. コロナ禍での卓球部	西 健宏	化学理工学科 3年 卓球部	32
2. 手探りのサークル活動	國友 紀孝	応用化学科 3年 将棋部	33

広告			34
東京農工大学基金へのご支援について			36
(一財) 東京農工大学教育研究振興財団の解散にあたり			37
東京都支部から			37
事務局だより			38

## 表紙のことば

表紙の錦絵は、左が農学部由来の「駒場農学校」(1882年/目黒区駒場野)と、右が工学部由来の「農務局蚕業試験場」(1886年/北区西ヶ原)です(現在の大学風景と対照)。多くの先輩がお世話になった従前の寮名は農学部寮が「駒場寮」、工学部寮が「西ヶ原寮」で、上記が寮名の由来です。

もう一つ興味あることは、校門(右上図)左に「農務局蚕業試験場」、右に「山林局試験場」(農学部前身)とあります。これらの同構内所在は一時期ですが、1880年代に既に農工大の“はしり”があったとは！

深水 智明(織工 S38)

## 表紙の題字：沢野 勉(農化 S32)

### 農工通信 102 号略記表

略記	学科・専攻名	略記	学科・専攻名	略記	学科・専攻名
農学	農学科	林産	林産学科	蚕糸院	蚕糸生物学専攻
林学	林学科	環境	環境保護学科	自然院	自然環境保全学専攻
農化	農芸化学科	環・資	環境・資源学科	織高院	繊維高分子工学専攻
蚕糸	蚕糸生物学科	製糸	製糸学科	化工院	化学工学専攻
獣医	獣医学科	織工	繊維工学科	応化院	応用化学専攻
農工	農業生産工学科/ 農学科・農業工学専修	機 械	機械工学科	機シス院	機械システム工学専攻
		農学院	農学専攻	生産博	生物生産学専攻博
植防	植物防疫学科	農化院	農芸化学専攻	機シス博	機械システム工学専攻博

# I 養蚕の技術指導で一役 ～大河ドラマ「青天を衝け」エピソード

## 1. 青天を衝いた渋沢栄一翁

須関(角田) 浩文 (蚕糸 S58)

NHK大河ドラマ『青天を衝け』をご覧になった方は気付いたかもしれませんが、オープニングの撮影協力を東京農工大学が紹介されました。母校の名前が出てちょっと感動しました。そのオープニングの中に養蚕指導で私の名前があったものだから本誌の原稿依頼ということなのかもしれませんが、実際のところ私は大した事はしていません。これには1年後輩で蚕学研究室の横山岳准教授が大きく関わっていて、横山氏の名前が何度も紹介されました。(東京農工大学科学博物館ニュース速報第47号を参照<https://www.tuat-museum.org/>)

2019年10月中頃、横山氏からあったドラマで使う桑畑の相談がきっかけで、私も関わることになりました。丁度、農工大の樹齢30年の桑株900本を改植するからそのまま持って行くとのことでしたが、私も桑栽培研究の経験があるとは言え、古株を植え替えるという経験がないので造園業者に任せるしかないとしか答えられませんでした。

当初はロケ地が群馬以外のところで準備されていたので関心も薄く、養蚕のことなら群馬県内で撮影してくれば全力で応援してやるのにと考えていた程度でしたが、年が明けて急遽、オープンセットを群馬県安中市に変更したとドラマのスタッフさんから連絡がありました。

渋沢栄一翁のことは、群馬県立日本絹の里の立ち上げや運営を担当していたころに、富岡製糸場の初代工場長である尾高惇忠を推挙した人物であり、群馬県の蚕糸業に深く関わっていたと承知していました。栄一が生まれ育った深谷市血洗島は、遺伝学の権威であり日本絹の里の初代館長、しかも母校の大先輩である田島弥太郎博士が生まれた伊勢崎市境島村の隣村です。境島村は田島弥平や田島武平など蚕糸界の先覚者を輩出した地であり、地勢的に蚕種製造に向いていたことから養蚕が盛んで、武平と親戚関係にあった栄一も蚕への造詣が深かったはずで

コロナ禍で桑の様子も見に行けず、しかも春先は降水量が少なく畑の土はカラカラに乾いた状態で枯れ枝が目立っていましたが、7、8月には新梢がある程度伸び撮影に支障ないほどで、映り込む道際の枯れ枝には、奥の方から枝を切ってきてわからないように括りつけて撮影しました。桑くれシーンの撮影は緑山スタジオでしたが、今はほとんど見かけなくなった七分籠の蚕箔を頼まれたので、県内中を探し回って、富岡市の養蚕農家さんから50枚借りました。そして、桑葉を切り桑くれのお手伝いをして蚕のお世話をしたのです。これが今回の役割としました。

養蚕の仕事唄も相談されたので、以前取材したことがあった方に連絡を取り、桑つみ唄や桑くれ唄の録音テープを借りて紹介しましたが、結局自前で作ったようです。

群馬の蚕糸業は風前の灯火と言われて久しく、富岡製糸場の世界遺産登録で見た希望の光は、高齢化問題の解決には至らず、世界に誇る日本の蚕糸技術がいよいよ失われてしまいそうな状況ですが、正に、「青空をつきさす勢いで肘をまくって登り、白雲をつきぬける気力で手に唾して進むが如く」の思いを抱きつつ蚕糸技術の継承に繋げたいところです。



安中ロケ地と緑山スタジオの蚕棚

## 2. NHK大河ドラマ「青天を衝け」への撮影協力

横山 岳 (蚕糸院 S61)

2019年からNHK大河ドラマ「青天を衝け」を手伝っています。主人公渋沢栄一の生家は養蚕と藍を営んでいたため、養蚕に関して様々な協力をしてきました。お陰でオープニングに「協力 東京農工大学」(第1,2,5,7,10話)の養蚕技術指導として、私と前群馬県蚕糸技術センター長 須関 浩文さん(蚕糸 S58)の名前が載って放送されました。ちなみに両名は「青天を衝け」のHPにスタッフとして名前が載っています(<https://www.nhk.or.jp/seiten/about/>)。

事の始まりは2019年10月頃、スタッフからの江戸時代の養蚕についての問い合わせからです。養蚕農家が減った現在では養蚕について知っている人も少なく、さらに江戸時代の養蚕となるとまずほとんど知っている人はいません。現在、「蚕」の名前を付けている研究室は筆者の居る蚕学研究室と九州大学の遺伝資源保存施設だけです。私がたまたま江戸時代の桑畑について雑文を書いたのをNHKスタッフが読んで問い合わせしてきました。「半年後から撮影が始まるので、それまでにロケ地に桑畑を作りたいけどどうしたらよいか?」と尋ねられました。江戸時代の一般的な桑樹は今と異なり大きな樹で、栗林のような桑畑でした。当然、「半年後にそのような桑畑を作る事はできないし、視聴者に桑畑と認識してもらえない」と言うと、納得され「では、今風の桑畑でも良いから作りたいけどどうしたら良い?」と。苗から育てていてはとても間に合いませんが、丁度、農工大の桑畑が30年経ち、改植の時期であったので、900本ほど伐根してロケ地に移植することとなりました。前年から準備することなく、根の養生無しにいきなり移植したので、上手く根付くか移植に関わったスタッフ、業者も冷や冷やものでした。ロケ地(群馬県安中市)の土は火山灰土で水はけが良すぎて根が伸びる事ができないためか、春になってもなかなか桑が開葉せず、丸坊主の桑畑のままでは、撮影が出来ないと皆青くなっておりました。不幸中の幸いか、コロナ禍で撮影が2か月延期され、ようやく葉が茂り、緑になり、皆胸をなでおろしました。

桑畑は頻繁に撮影に使われる場所に作られ、放送では桑畑が度々映りました(図1)。その度に私は「農工大の桑樹」っとニヤニヤしながら見ておりました。

桑畑を作るとともに養蚕が分からないと脚本、台本自体が書けませんから、スタッフに、まず、「養蚕とは何ぞや?」をレクチャーしました。私は農学部で「蚕糸学」

という講義をしており、その講義ノートを渡し、スタッフにまわし読みしてもらい、養蚕の概要を理解してもらいました。また、江戸時代の養蚕をイメージしてもらうのに、農工大の科学博物館(旧繊維博物館)所蔵の養蚕に関する浮世絵がスタッフの理解に大変役に立ちました。その浮世絵を見て、江戸時代の養蚕が再現されていきました。



図1 ロケ地のわりと良い場所に桑畑が作られました

大河ドラマ「青天を衝け」は史実に忠実でありたいと、養蚕も江戸時代の当時の再現を目指して撮影が進められ、当時の蚕品種「小石丸」で撮影することになりました。数百頭なら研究室でも飼育できますが、撮影に幼虫一万頭、繭一万粒使いたいと言われ、大日本蚕糸会蚕業技術センターの新保 博所長(養蚕 S48)にお願いしました。

2020年7月からスタジオ撮影が始まり、養蚕の作業を行っているシーンがある時は撮影に立ち会って、俳優さん達に養蚕作業を教えました。桑葉の収穫、給桑、上蔭、収繭等々、当時の養蚕作業は主に女性の仕事なので女優さん達に指導しました。実際に生きた幼虫1万頭を使って撮影をした際、女優の皆さん、虫が苦手でありハースルではキャーキャー悲鳴を上げていましたが、本番では嫌な顔もせずニコニコと蚕の世話をされました。流石、プロです。

スタジオ撮影、ロケ地の撮影ともにコロナ禍で、スタッフ、俳優みな感染防止のためマスク着用、消毒も徹底され、お陰で感染者がでずに撮影が進められました。撮影時には綺麗な女優さんを前に鼻の下を伸ばしていましたが、マスクをしていたお陰で見つからずに済んだのは助かりました。

養蚕があるシーンでは撮影に立ち会ってきましたが、どの様に編集されるかは放送される直前まで分かりません。ぱっさりとカットされたシーンも多々ありました。ちょっと変わった手伝いと言えば、第1話ではカイコ幼虫が躍るCGがありました。これも手伝いました。「カイコ幼虫がTVに映るだけで視聴者は嫌がるから止めた方が良いよ」と言ったのですが、スタッフが「躍らせませす!」と。そのため、幼虫の様々な角度の画

像、動画を提供し、途中経過のCG幼虫の修正を指示しました。無事CGが出来、放送されると、数百の幼虫が躍り、やはりお茶の間には悲鳴が上がったようですが、結構話題になったようです。

居間の新田猫絵の掛け軸(図2)は、科学博物館開催の企画展「猫神様と養蚕」で展示された掛け軸(複写)です。養蚕の話をスタッフにしている時に「ネズミがカイコを食べてしまうので、昔から養蚕農家はネコを大切にしてお札を張ったりします。有名なのは新田猫絵です。新田の庄と血洗島はわりと近くです。」の話をしたところ、スタッフが面白がって採用されました。当初、飼育室に掛けられると思っていましたが、居間に掛かり、場面ごとに他の掛け軸に掛け替えられるので、残念

ながらTVに映る頻度は低かったです。

大河ドラマに関わることなど滅多に無い事なので、貴重な体験でしたし、東京農工大学の名前を大河ドラマに刻めて満足しています。

(農学研究院准教授、東京農工大学科学博物館 副館長)



図2 居間に掛けられた新田猫絵

## 東京農工大学科学博物館所蔵錦絵より



養蚕の図 四(ようさんのず 四)

橋本直義



蚕鼠除御歌(かいこねずみよけおんうた)

蜂須賀国明



蚕養仕立ノ図(かいこやしないしたてのず) 3枚綴 三代目 歌川国貞

## II 心に浮かぶ若かりし日の思い出

### 1. 我が人生

鈴木 昌康 (林学 S31)



ベレーが著者、同窓会毎年

昭和31年林学科卒、88才。在学中、教室の授業よりは演習林(本学草木演習林、東大瀬戸演習林)が面白かった。夏休みには、信州裾花川第2営林所で地すべり調査測量、湯沢砂防工事事務所での河川測量は夏休み一番楽しかった。伏谷先生からの依頼で神奈川県酒匂川の水源から河口までの全域調査、カメラなし、三角定規、ポール1本、野帳で、スケッチして歩いた。卒論の代わりになったかな。

就職は福井県庁大野土木出張所。その後、3度目上級職合格し、技術主任として建設省立山砂防工事事務所鬼が城出張所へ。山奥の合宿のため、陽の当たる場所に移りたいと希望、神戸市の六甲砂防事務所に移った。職場は計画係長であった。ここで私の文明開化、神戸労演に入った。福井、富山労音には山から毎回参加していたが、神戸では労演に素敵な女性がいて惚れるより尊敬して文化活動にはまり込んだ。1964年4月17日事件を機に日本共産党に入党した。

1週間後、日光砂防に転勤の辞令が来た。砂防の仕事は山奥の本当の砂防工事。神戸の六甲では都市砂防、日光では国宝保護の砂防工事等、夫々変わったことをやったことになる。日光砂防工事事務所は調査課長など、80人くらいの職員がいた。宇都宮労音日光地域責任者阿久津さんが調査課庶務担当官でいた。私は宇都宮の労演・労音に入り、落語を聴く会で清水さん等と友人になった。阿久津さんの補助役をして、宇都宮労音委員会に日光地域代表として参加できた。日光労音誕生の

道筋は出来ていた。砂防調査は小見山係長以下7人、真面目で弁当持ちで飛び出していく。私も水路工実験場に出かける。建設省3年目肩書が先行し、仕事は部下にお任せ。気持ちよく仕事してもらえればいいの心境。労音サークルは古河電工精銅所、東武電鉄・バス、市役所職員、地方公務員など100人位、バス2台で宇都宮通い。共産党県委員会の飯田県委員長を訪ね、私のやりたい仕事について3時間ほど語り合い、うたごえ集会、日光公会堂でゴーゴー大会、各月ジョージバンド中心に数100人の若者踊る。精銅所の若者が活動に参加し、2年余りで労音が誕生した。

発足例会を準備中、事務所から所長の電話があり、「今から東京へ辞令貰ってこい。」日光から追い出し転勤か。しかも労音立ち上げの日とはえげつない。建設省砂防課係長に辞令返し、辞表書いてやめて、例会場に戻った。日光労音が800人で誕生した。専従事務局長になり、毎月定例会で多忙だ。

コンクリート床、照明器具なし、マイク1本、元飛行場格納庫だった建物だ。照明も音調も購入し、整え、自力で毎月定例会の開催は大変だった。高石友也、上条、丸山、加藤各氏らに励まされ、島倉千代子例会は楽しかった。冬将軍、最劣悪会館、日光の地形など悪条件などのため4年で元に戻った。

1970年沖縄返還運動の歌劇、「沖縄」を公演、うたごえの仲間と公演。この間10人党員が生まれていた。宇都宮労音事務局長15年の間、ベートーベンの第九「合唱」公演4回で古河市に引き上げた。宇都宮第九合唱39回開催した。コロナで小休止だ。39回目皆さんサンキューです。古河市では子供たちに算数塾、午後と夜10人ずつ位で10年、子供遊び場、みな面白く成長していった。1996年に古河平和委員会作り11年間事務局長、そして日本共産党活動の後、晩年、車椅子、ベッド生活、妻亡くして4年。ヘルパーさんの世話で安心・安全生活を楽しんでいる。我が人生記はコロナのせいでストップ中。いずれ出版されるだろう。歌劇「沖縄」成功後、三浦園子と光明寺で結婚。金のわらじをはいた花嫁だった。ありがとう。

## 2. 寮寮の思い出

里 具洋 (機械 S46)

昭和42年3月、農工大受験の時、兵庫県の高校の先輩が入寮していた寮寮を斡旋してくれ、それで宿泊させてもらったのが、寮寮との最初の出会いでした。縁があつて無事合格し、早速入寮しました。昭和41年～42年に竣工した学生寮で、4人相部屋で3棟あり、370人ほどが共同生活をしていました。学生が寮委員となり、運営、管理を行なう自治寮でした。

工学部キャンパスの西側、現在体育館がある付近に、以前の西ヶ原寮が残っており、まだ生活している先輩が居られて、そこで麻雀をやったことがありました。撤去される建物を見ていると「つわものどもが夢の跡」という感慨をもちました。

全国各地から来た学生は多様な個性を持っておりました。床に新聞紙やゴミを捨てっぱなしで気にしない人、部屋にコンロを持ち込んで自炊する人、授業にはほとんど出ずベッドで寝たばこをして床を灰皿にしている人など。

各県人会や学科毎に歓迎コンパや追い出しコンパが行なわれ、酒が入った後はストームといって、各部屋を挨拶と称して騒いで回っていきます。ある時、機械工学科の歓迎コンパで、酔いの勢いに乗じて、女子寮にストームに行こうということになり、当時、寮寮の南東にあった楓寮に押し掛け、浴室の窓から入って行きました。軽い冗談のつもりが、女子寮の中は悲鳴と共に大騒ぎとなりました。

後日、寮委員から処罰が言い渡され、関係者はゴミを捨てる大きな穴を掘らされました。

機械工学科では3年の夏休みに工場実習に行くのが必修となっていました。私は長崎県佐世保の造船工場での2週間の実習を終えた後、九州旅行をして帰ることにしました。この時、特に旅館やホテルは予約していなかったので、長崎大学や大分大学の学生寮を訪れて、宿泊させてくれるよう頼み込みました。夏休みの期間で帰省している学生が多いこともあり、すんなりと受け入れてくれました。50年前の古き良き時代でした。

写真は22ページに掲載しています。



## 3. 卒業後のお遍路さん？

管野 善則 (化工院 S52)



同窓会の意にすぐわなないかも？後輩の高野君に誘われれば逆らえないので、暴れん坊記憶書き留めも味が！一言で言えば、周りが風変りな私を怖がり？卒業後、クラス会の誘いも2年程前に一度だけ。その時は、漆山先生に会えるのが楽しみで出かけました。

先生に会えるのが楽しみで出かけました。

学生時代、空手部どっぷりで、「無意味な群よりも意味ある孤立を」「他人の評価を全く気にしない哲学」。卒業時、どの道を選択すればが？「エスカレーター式就職は避け」、①外国留学逃亡(母親が拒絶)②空手師範の道を本部道場の誘い(私は2年生から空手部に入り、直ぐ黒帯、3年で3段、4年で4段と最短コース)。自画自賛??中学生で既に背筋力170Kg、100m走、砲丸投げ選手。昔から馬鹿力。不良グループでさえ避ける人物で…結局、決める事が出来ず、単に修士課程へ。この時が問題。あの温厚な清水先生に本当に怒られました。理由:12月中に卒論提出、その後、研究室に顔を出さず。自分では人一倍の卒論を書き上げたと自負、義務を果たしたと結論付け。若気の至り。修士は、己のミスを恥、他研究室に移動。本来、研究が好きで、修士に進んだのでは無く、人生を決める事が出来ず、院に入った次第。然し、修士2年になり、突然、研究の面白さが湧きあがり、益々、自分の選ぶ道が?当時、有名企業から、弊社においでよと、呼びかけが掛り、益々??困ったさんの時、加部先生が推薦してやるから東工大へ行けと。

当時、東京圏内では、東大・東工大しかドクターが無い時代でね。東工大でも波乱万丈。節目節目で救ってくれる恩師に恵まれ、何とかドクター取得(東工大でも、岐路にぶち当たったのですが)。理由は簡単。ドクターに居ながら、キックボクシングの名門、目黒ジム入門。ジム会長孫の家庭教師、試合デビューとオファーが。流石に指導教官の許可無しには?結果、指導教官から怒られ、なら退学しろと。

ドクター取得後、通産省入省(工業技術院)→名古屋工業技術試験所(名工試)→山梨大助教授・教授→首都大学A I I T教授、停年退職。途中、日本から頻りに脱獄し、



フランス、ナント大、トリニティーカレッジ、アレニウス研究所、ノースウエスタン大、台北科技大等の歴史です。

PS:名工試時代に清水先生を訪ね謝罪しました(相変わらず、優しい先生でした)。

## 4. 学生時代の思い出

能美(岩澤) 寛子(農化 S53)



小林先生と化学展にて

農芸化学科に入学した1974年に小林節子先生との出会いがありました。学科の唯一の女性教員で有機化学を担当されました。私が東大大学院の入学試験に合格した時、研究室で最初の女性の修士だと言われました。40歳年上の小林先生の時代では国立大学の女性教員は本当に少なかったと思います。2019年4月に104歳でお亡くなりになるまで、長きにわたり師弟関係が続きました。私が非常勤講師として農学部本館で講義をした教室が、学生時代に小林先生の有機化学の講義をうけた教室だった時は感慨深いものがありました。

農工大で教え始めた時に努力すれば届く目標を持ち、マンネリにならないようにと言われました。小林先生が97歳の時に府中駅で待ち合わせをして、農工大の学園祭に行ったのが二人で農工大の構内を歩いた最後でした。

当時の農芸化学科は一学年30人程度でした。遊んだりするときの団結力やエネルギーは有ったので、学年が進めばそのエネルギーが学問に向くだろうと思われた学年でした。例えば、東京工業大学から教えに来て下さった先生の物理化学の授業が1限にありました。冬のある日、出席している学生の人数がとても少なく先生もどうしたのだらうと思われたようでした。出席していた学生にもわからなかったのですが、後で聞くと何人もの学生が落ち葉を集めて焼き芋を作るので授業を欠席したそうです。学生実験で土を使う事があったのですが、土を取りに行った学生が多磨霊園のお墓まで行ってなかなか実験が始まらなかった等々、今の学

生ならやらないと思う事が色々ありました。

初めての非常勤講師は農芸化学科の1985年の学生実験でした。米国で2年間生活して帰国後しばらくしてから、一般教育部、農学部、工学部で化学、物理化学A、無機化学、総合化学の講義、実験などを担当しました。工学部でBASEコンサートが開かれた時に演奏依頼がありました。40年近いブランクがあつてピアノを1ヶ月位練習したのも良い思い出です。辞める年2019年11月はお箏の演奏で締めくくりました。(学生時代は竹桐会でした)

自分の子供より農工大の学生は素直で言う事をよくきいてくれると思う時期もありました。学生に恵まれたから、私は長く非常勤講師を続けられたと思っています。定年で終了となる時に先生方が会を開催して下さいたのも忘れられません。

現在はコロナ感染症の影響で以前のような学生生活を送れないと思います。それでも、農工大での師、友人との出会いを大切にして欲しいと思います。

## 5. 永遠の友達

松村 一郎(環保 S55)



団体役員を今年の3月に退任し、4月からわずかな畑での農業と薪割りの日々が始まりました。薪割りは自宅の薪ストーブの燃料とするためです。

私は昭和51年入学と同時にバドミントン部に入部しました。この年の新入部員は、20人(男子14人、女子6人)程と記憶しています。新入部員の多くは私のような初心者でした。当時バドミントン部は関東学生リーグ4部(1部から13部)で熾烈な残留争いをしていました。新入部員は五月雨式に入部してきました。初心者の入部が続く中、一番遅れて入部してきたのが須田君(電子)でした。先輩「経験者？」須田君「はい。」先輩「じゃー軽く打ってみようか。」何人かの先輩とシャトルを打ち

ました。先輩方の驚きと喜びの表情が見て取れました。須田君はその後バドミントン部の救世主となる活躍をしたのは言うまでもありません。また、女子部員の入部もこの後続き、女子のリーグ戦参加へと繋がります。

バドミントン部は、体育会でしたがなごやかで家庭的な雰囲気でした。練習後よく飲みに行ったり、自宅通学の先輩の家に泊まりでお邪魔したりもしました。農学部同期の八嶋君(獣医)、関口君(農化)、猪瀬君(農工)は同じ関東出身で全員アパート暮らしであったことから昼夜の付き合いで、定食屋「本陣」「グリル岡田」居酒屋「やすさん」へ皆とよく行きました。

バドミントン部は新歓コンパに始まり、暑気払い、合宿打上げ、忘年会、追い出しコンパと酒宴も数多くありました。初心者であった私は、さながら宴会要員。カラオケなど無い時代、宴会も盛り上がってくると「高らかに♪～」と全員で部歌を歌いました。大会はリーグ戦の他に国公立大会や3大学大会(農工大、信州大、京都工芸繊維大の定期戦)などがあり初心者の私も参加することができました。特に3年生の時、大学を代表して参加した国公立大会の開会式は東大の駒場キャンパスでした。そのアトラクションで東大チアリーディング部の女子学生がスターウォーズの曲に合わせてチアダンスを披露したのは驚かされました。3大学では、夜行を使って京都駅に早朝に到着、疲れた体でそのまま試合に臨んだこと。学園祭の模擬店で売るはずだった水飴の入った一斗缶が前日盗難にあったことなど多くの思い出があります。思い出の中には必ず友の存在がありました。電話一つかけるだけで、学生に戻れるのが学生時代の仲間です。新型コロナウイルスの収束を願いつつ早く酒友と再開できることを楽しみにしています。

## 6. 林学科入学により導かれた その後の進路

坂口 浩一郎 (林学 S58)

農工通信に寄稿する機会をいただいたので、本学林学科に入学後40年以上経ったこれまでを振り返ってみます。

入学する春に石川県から上京した私がまず向かった先は、これからの大学生活の拠点となる「櫛寮」でした。当時の櫛寮は各学年が入居する4人部屋が主体で、生活時間のズレから夜遅くまで明かりが灯り、入寮当初から続いた諸先輩方による歓迎コンパでは、飲酒に慣れておらず毎回のようダウンしたものでした。



家族そろっての一枚

そんな寮生活も次第に落ち着き、当時、工学部正門前にあったお好み焼き屋さんで閉店近くに出向き腹ごしらえを済ませると、店のおばちゃんと明け方まで麻雀していたことが懐かしく思い出されます。

2年目からは農学部近くの古い木造アパートに引っ越し、4畳半一間で洗面所は共同でしたが1人部屋で気兼ねなく過ごしていました。仕送りだけでは不足する生活費を工面するため、造園会社の草刈りや京王線府中駅そばの居酒屋などでよくアルバイトをし、東京競馬場が開催される週末には多くのお客が来店するなど、忙しい中にも活気あふれる時間を過ごしていました。駅前から大学方面に続く大きなケヤキが植わった並木の落ち着いた雰囲気が好きだったので、ストリートビューで今の様子を見てみると、並木の両側にはビルが建ち並び、駅周辺の街並みもずいぶんと変わっているようでした。

こんな大学時代の楽しかった思い出の一つが、群馬県等にあった演習林に何回も行ったことです。

30人ほどのクラスメイトとともに1週間程度の実習期間中、林業に必要な下刈りや伐木などの作業体験をはじめ、測量や森林調査等の研修を行いました。教室での講義とは異なり森林内での実習は、機器の操作や作業を体験することによってしっかりと理解できる貴重な授業になりました。

加えて、宿舎が人家から比較的離れた所にあり、気兼ねなく夕食時には毎晩のようにミニ宴会で盛り上がっていたことが、懐かしく思い出されます。

そんな私も無事に？卒業し、石川県庁に林業職として採用となりました。ご承知の通り県の行政は細分化された専門的な業務となっており、本学で学んだ幅広い知識によって、様々な業務をスムーズに担当することができたと思います。令和2年には県を定年退職し、現在、石川県山林協会に勤めています。

改めて思えば、長きにわたり職業として林業・木材産業の振興に微力ながら携われた要因は、林学科への入学がきっかけとなり諸先生方の熱心なご指導によって導かれた賜物であり感謝に堪えません。今後益々の母校の発展と関係する皆様方のご健勝ご活躍を祈念して、所感とさせていただきます。

## Ⅲ 定年後を支える豊富な社会経験

### 1. 九十年をふり返る

中村 典郎 (農化 S28)

#### (1) 東京高等農林をめざす

明治の晩年、実科卒業後、園芸の原瀬教授の薫陶を受けていた私の父は、実科に特別な思い入れをもっていた。その気持ちは、はじめ私の長兄に、そして長兄が戦死した後は私に折にふれて東京高等農林進学をめざすようにしむけられた。受験の年頃となったが、所詮は片田舎の受験生のこと、当初は旧制静岡高校、次いで、第一志望の筈の東京高等農林にも惨敗、失意のうちに時は移って、学制改革となり、昭和24年7月、新制農工大農学科によりやく入学した。

#### (2) 有働教授のこと

2年次の後半になって、農学、農芸化学、農業土木の三つの専攻に分かれることになった。私の希望は農芸化学だったが、父としては当然、農学専攻と思っていたところに突然の反逆、父を崩すのは容易な事ではなかったが、夜を徹しての説得でようやく折れてくれた。やがて、農芸化学科は独立し、教授陣も増強された。卒論は新進の高橋健教授、その講義はすべて新鮮そのものだった。テーマは新抗生物質の探索、いくつか有用なものが見つかったが、新しいものはなかったように記憶している。この卒論では赤堀君はじめ、友人に大変お世話になった。

卒業の頃は大変な就職難で、とりあえず研究生として大学に残ることにした。やがて、有働教授の助手の話がもち上がった。ところがある日、川村教授に呼ばれて「君は大学のOBとの会合で、『先生方がちっとも就職の面倒を見てくれない』と言ったとのことで、有働教授がカンカンに怒っている」と、私には全く身に覚えのない事だったが、結局、人ちがいが判って一件落着、無事、副手の辞令を戴いた。

有働先生は、何事にも信念を貫き通す方のお見受けしたが、特に新一号館をはじめとする研究棟の新築は、先生にしてはじめてなし得た功績として洵(まこと)に大きいのではなかろうか。

#### (3) 工技院発酵研へ(現在の産総研)へ出向

そのうちに兼任教授として発酵研から出向していた田辺部長からのお話があって、昭和30年4月から発酵研の研究者となった。

当初はアミラーゼの研究の手伝いだったが、次第に研究の幅を広げるようになり、有用微生物の探索中に、伊豆長者ヶ原の草原の土壌から分離してカビの生成する粘質物を発見した。これはブドウ糖の $\beta$  1.6結合のポリマーにマロン酸が結合したもので、漸く研究者として独り立ちできるようになった。

各地の農化大会には殆ど出席させてもらい、酵素化学シンポジウムでは関西の研究者の熱気を肌で感じることができた。

やがて、研究所から、アメリカ留学中のS氏から「後任に推薦したい」という話が舞いこんだ。しかも家族同伴OKという。ところが、この頃、私の両親が年老いて病がちとなり、私の高校への転職の話がかなり進んでいた時期であった。二度とあり得ない話であり、大いに悩んだが、自分としては結局「家」を選ばざるを得なかった。

#### (4) 新たなる道へ

昭和38年4月、静岡県の農業高校の農芸化学科の教員として赴任した。そこでは、研究所でやり残した粘質物の利用や同種の他の微生物の探索というような仕事どころではなく、若いエネルギーを精一杯発散する生徒の対応に追われるような毎日であった。

やがて、田辺部長から「論文をまとめないか」というお話があった。はじめ遠慮したが、結局「 $\beta$  1.6 glucan およびその分解酵素に関する研究」として、東京農工大学に提出した。学位審査の発表会では特に副査の佐橋教授から厳しい質問が出るかと、おそれながら待ち構えていたが、逆に激励のお言葉を戴き、大変恐縮した次第であった。

其の後は家に近い高校を異動し乍ら、定年を迎え、藤村、春夫そして杜甫など、折りにふれて親しみ乍ら、92才の今日に至っている。



## 2. 我が人生はマザー・コンプレックス

八島 茂夫 (農工 S37)



誕生後間もなく易者にみてもらい、「この子は将来、外交官か博士になる」と宣託されたこと、母はことある毎に繰り返していました。更に学齢期になると、「嘘つきは泥棒の元」、「世のため、人のために尽くせ」が口癖でした。福祉施設の院長だった人徳高かった祖父の

再現を私に託したのかも知れません。今思えば、私はこの言葉に暗示をかけられてしまったのです。

大学を卒業して、「世のため」に従い国家公務員になり、最初は農林省の土地改良事業に関わりました。9年目にマレーシア派遣の打診が舞い込みました。東マレーシア東海岸北部の10万haの水田地帯、ムダ地区での大型機械化水稲二期作化事業で問題が発生し、日本に技術協力が要請されたのです。はじめは研究所部門が対応していましたが、対象が大規模すぎると言うことで、行政部門に応援が求められたのです。人事は難航し、私は8人目とのことでした。海外も稲作も未経験で勇気が要りましたが、母の暗示に背中を押されて海外派遣に応じてしまいました。

現地に行ってみますと、大規模なダムと幹線用排水路、並びに約1千haの1ブロックにつき取水工1カ所と2キロほどの用水路が完成していました。末端施設がないため、もともと水の移動を考慮していない天水田だったので、ブロック全体の湛水に1ヶ月近くもかかってしまうのです。問題は乾季に灌漑したため、水田を乾燥できなくなり、地耐力低下で機械が使えなくなり、また稲の栽培の周年化で病害虫が異常発生してしまったのです。そこで、地耐力強化のため、乾季に3ヶ月間、水田を十分乾燥すると共に害虫のライフサイクルを断ち、残余の雨季に二期作を導入する新しい作期計画を立てることにより、問題解決の道は開けました。次に、ワークショップを頻繁に開催し、先ずエンジニアに、更にエンジニアが現地スタッフに技術を移転し、7万戸の農民への普及に当たりました。長丁場となり、当初1971年から2年間の派遣の予定でしたが、最終帰国は1984年になってしまいました。研究対象になったことのないムダ地区には、学位論文のネタがゴロゴロしており、これを学会誌にシリーズ的に投稿していた

ところ、学会賞を授与されると共に、母の願いであった博士号も手にすることができました。このお陰で、国際灌漑管理研究所(在スリランカ)、三重大学教授など、通常の農林水産省職員では望みえない貴重な経験を積むことができました。

定年退職して、土浦市の新住民になり16年が過ぎました。何時の間にか町内会の理事や老人会など3クラブの会長に就き、多くの仲間に関わり楽しく余生を送っています。母の導きに従って、正直に社会のため行動しているうちに、地域住民の信頼を受けることができたからと思います。82歳になり老い先短くなりましたが、改めて母への愛慕が募っています。

## 3. 私にとっての農工大

糸数 剛 (農工 S45)



○志望していない東京農工大に入学

沖縄は、敗戦後米軍統治下におかれ、基地の維持運営が最優先され、住民の民生面は後回しとなり、特に本土との教育格差は大きいものがありました。

その是正のため琉球政府は、日本政府援助を得て本土大学への国費留学制度を1960年に発足させました。私も選考試験を経て、留学生として東京農工大学を指定され入学しました。

○想定外の国家公務員になる

卒業後、琉球政府に就職、鉱業職に配置となり、領有権問題で脚光を浴びている尖閣諸島周辺の石油鉱業権出願の処理に追われましたが、そのわずか1年半後に「日本復帰」となり、琉球政府が解散、私の所属していた係は、国の所管業務だったことから、係全員が新設された国の支分部局沖縄総合事務局に移管され、国家公務員となり、以後、鉱工業関係の業務をしていました。

52歳で早期退職し、経済調査や地元企業の支援幹旋等を目的とする(一財)南西地域産業活性化センターにおいて、64才の完全リタイアまで勤めました。

○60歳過ぎて農工大同窓会終身会員になる

卒業時、農工大と関係するようなことはもうないだろうと、終身会費は納めませんでした。沖縄支部総会にも出席することはありませんでした。役所を退職時、一回だけでもと誘われ、義理で出席したら、以後毎年、出席メンバーとして数えられ、ついには、沖縄支部連絡員の指名を受けてしまいました。引き受けるには役職柄として同窓会員であることが必須なので、遅ればせながら、終身会費を納入した次第です。

#### ○農工大同窓会員だとの実感

2013年、初めて支部長・連絡員会議、同窓会総会及び懇親会に出席することになり、懐かしい方々と思いがけない再会があり、楽しいひと時が過ぎました。

本寄稿のテーマを考える中、講義や実習でのやり取り、8人部屋でにぎやかだった駒場寮での生活、測量バイトで岡山勝央や長野望月に行き夜は連日飲み会だったこと、タクシードライバーを東小金井駅待ちでやったことなど、記憶の底に埋もれていた思い出に浸るいい機会を得ました。

農工通信ありがとう。

## 4. 臨床獣医師を目指す若き学生さんへ

鈴木 清志 (獣医 S47)

中学時代から憧れていた臨床獣医師に就職が決まり、東京から汽車と連絡船を乗り継ぎ、函館から帯広へ、そして池北線で本別駅と、まる一日がかりで到着した。昭和47年の事でした。

当時は牛10頭も持っていれば、かなりの資産家と思われる酪農形態で、個体診療中心の時代でした。難産、乳房炎、産後疾患、繁殖管理、毎日、車で往診をして、一日7件程度をこなし、独身時代は農家で昼食を御馳走になるという呑気な時代でした。

ここ最近では成乳牛百頭を超える牛群を持つ酪農家が多く、群管理技術が現場で要求されています。産後疾患の代表と言われる第四胃変位は診療所の手術室へ運べば簡単に修復されます。但し、泌乳能力はかなり低下します。いかに牛群の泌乳能力を維持するのか、体細胞問題、繁殖管理を含めて大変な課題です。

64才の時、共済組合を退職し、この後、5年間、食肉検査の仕事に就きました。真冬マイナス20度の世界でも、馬の難産では諸肌になり、胎児と格闘していましたが、食肉検査所では検査刀の消毒にプラス85度の湯水が施設に巡回しており、まことに暖かい環境で仕事が出来ると考えてもいなかった世界でした。

臨床では40年以上の経験があっても、食肉の世界では全くの一年生で、30代の若いバリバリ検査員がやさしく指導してくれましたが、年の入った私の脳では、仕事を覚えるのにかなり苦労しました。

食肉検査の世界を経験して、自分がいかに牛馬を治すことに集中していたか、夢中になっていて、治療の至上主義になりすぎていた事に疑問を持ち始めた瞬間でした。

牛群の能力をいかに維持してゆくか、牛個体の更新をいかに効率的に行きゆくのか、このアドバイスが十分に出来得る技術者を、今、時代が要求しています。

さて、私は古希の声を聞いて、全ての仕事から手を引きました。現在は、地元の剣道少年団の指導と居合道の世界に魅了されて、八段挑戦中という状況です。また、杖道という古武道に近いもののかじり、還暦を向かえてから始めた剣詩舞という舞の世界も楽しんでます。

女子高校生だった彼女が20才になった時、結婚、現在でも8つ違いの年の差のギャップは全くなく、ここ本別という街中にある自然豊かな本別公園の四季を楽しみながら仲良く暮らしています。どうぞ、本別を検索しておいていただきたいと思います。

## 5. 再び学びの場へ

小林 文博 (機械 S50)



滋賀県立彦根工業高等学校 成果発表会  
令和3年2月17日、彦根文化プラザ

昭和の時代に卒業し東京を離れてほぼ半世紀、最近農工大の名前を様々な媒体で目にし、卒業生として誇らしさを感じます。歳をとったノスタルジーなのか母校愛なのか曖昧ですが、妻がテレビを見て“お父さんの大学名が出ている”と言ってくれるとやはり嬉しいと感じます。最近では大河ドラマのクレジットに大学名を見つけ養蚕の指導をされたことを知りました。そういえば入学した時に小さな繊維博物館があったなと思

い出しました。

卒業して関西に本社がある会社に就職、45年間勤務し、昨年6月に退職しました。滋賀の暮らしが長くなりましたが、入社をするまで箱根より西で暮らしたことがなく、また今の様に吉本芸人が全国区ではなかったこともあり、こちらに来るまで関西の文化に多少アレルギーがありました。しかしご多分にもれず住めば都で今ではすっかり馴染んでいます。

会社では各種機械の開発に携わったのち建設機械事業の責任者を務め海外にもよく行く機会がありました。また最後の1年はプロサッカークラブの育成、普及を担当し得難い経験をする事が出来ました。ちなみに学生時代はサッカー部に所属し、今でも当時の仲間とZOOM呑み会で近況を語りあっています。

退職後2カ月ほどはのんびり過ごしましたが、そのうち物足りなさからもう一度仕事に就きたいと思い出しました。そんな折に見つけた地元県立工業高校学習アシスタントの求人に応募し採用されました。理解が遅れがちな生徒に数学や化学、英語の学習を補助しています。おかげで教科書を見返したり、プリント問題を事前に解いたり頭訓練になっています。

そんな中、令和3年2月に開催された学校行事で学生に向けた講演を依頼されました。何を話したらよいか考えたあげく、これから社会に巣立つ生徒達に45年間の仕事を通じて感じたことを伝えることにし、50分の講演を無事終えました。

どれだけ響いたかは分かりませんが、一番伝えたいことは“ものづくりは面白い”ということ、少しでも何か残れば良いなどの思いでした。

思いがけず、再び学びの場に立ち感じたことはものづくりを目指す子が減っているのではないかということです。地味な仕事に見えるのかも知れませんがもっと日本の技術や製品の評価を彼らに伝えて夢を描いてもらわなければと強く思いました。その為には今後もっと学校と企業の交流、連携が必要だと思います。あと僅かな時間ですがそんなことにお役に立てればと考えています。

## 6. 同窓会事務局長退任

池谷 紀夫 (農学院 S52)

2013年10月1日から足掛け9年にわたり同窓会事務局長を務めてまいりましたが、本年3月31日をもって事務局長を退任することになりました。古希を迎えましたが人生の3/4を農工大学の周りで生活して

きましたのでその思い出を少し…

学生時代:学園祭の「のど自慢大会」で2年連続優勝。作物学研究室で真っ黒になりながらの真夏の実験。大学院に進み生産組織学研究室で技術論に関する研究。農場に落ちていたキャベツやトマトによる夜食。バラエティーに富んだ学生生活。

※「昭和」という浪花節の時代を、学生時代に楽しめてよかったと思っています。

事務官時代:農工大学卒業の事務官第1号として大学に勤務。不惑を迎える少し前に日本南極地域観測隊隊員として、昭和基地で足掛け2年生活。帰国後42歳で退職。

※わがままに行動したことを受け止めてくれた先輩や同僚に感謝しています。また、南極観測隊員のバラエティーに富んだ才能に触れることができて幸せでした。

自由人時代:退職後リゾート地「白馬」でホテル勤務。2回目の南極昭和基地での生活。武蔵小山で「ちょっとパール夢大陸」経営。経営不振で閉店。

※公務員時代と違い、世界の違う多くの人と接触できました。信じられない人も…

出戻り時代:再び農工大学事務官に復職。農工大学の法人化に遭遇。工学部事務長として60歳で定年退職。

※再び採用してくれた東京農工大学に感謝しています。また工学部での経験は実りの多いものでした。

国際人時代:定年退職後、大学が取り組んでいたJICA「草の根技術協力事業」(ベトナム・ブラジル・ウズベキスタン)の仕事に参加。現地にも出張。

※自然・文化・経済すべて違う国の方々と接することができ、視野がかなり広がったと思っています。

同窓会時代:同窓会事務局長と教育研究振興財団(後援会)の事務局長に就任。

通常業務に加え、同窓会の法人化・財団の解散の業務等を担当。

※南極生活では「終わらないブリザードはない」という合言葉がありました。難局にも正面から向き合うことの重要性を再確認しました。

事務局長退任後も農工大学とかかわりが持てたらと思っています。皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

## コラム〈苦難を乗り越えて 1〉

### 2021年2月『鳥インフルエンザ』被害に遭った義弟の養鶏場

鈴木(奥田) 一郎(農学 S47)

私は農工大卒業後、埼玉県の生協に勤めましたが、半年後に先輩F氏から話があり、学生時代在籍していた園芸学研究室の先輩A氏が始めた農事組合法人の「産直事業」を手伝うことになりました。その仕事をする中で、当時同組合の役員であったI・Hは私を彼の妻の実家の婿養子へと導きました。私と同年のI・Hは千葉県九十九里地方に農家の長男として生を受け、採卵養鶏業に取り組んで五十数年になります。当初から自家配合で鶏の餌を作り、義妹と共に養鶏を行なってきました。

『鳥インフルエンザ』は2020年人類を襲った新型コロナウイルスに隠れるようにヨーロッパで発生し、2020年後半から日本国内に蔓延していきました。そして18県52農場987万羽の家禽を殺めました。

千葉県では房総半島にある大手養鶏場のウインドレス鶏舎で2020年末と2021年初めに計227万羽に発生しました。そして2月8日にはとうとう九十九里ファーム(25万羽)で、さらに11日には義弟の息子が責任者である別の採卵養鶏場(27.8万羽)でも発生しました。飼育数全国2位の千葉県では合計456万羽の被害があったのです。

九十九里ファームでは、鳥インフルエンザの元凶と言われる野鳥が鶏舎に入らぬよう細心の注意を払って、ウインドレス鶏舎で飼育していたにもかかわらず発生してしまったのです。野ネズミの侵入が原因であったようです。

被災した農場では、①飼育していた鶏全て殺処分、②卵(産んでいた、貯蔵していた)全て廃棄、③鶏舎、周辺地域施設および道路の消毒、④関係者の鶏舎そして周辺への入場の際の消毒、⑤関係者以外への入場禁止、などの措置が多く、の労力を投じて行われました。

九十九里ファームは再建に向けて、家族そして従業員一丸となって取り組んでいます。鶏舎の消毒を始め雛の確保、消毒の際使用した水の処理などの難問も多々ありました。全面解決には多くの時間と労力そして資金がまだまだ必要です。さまざまな困難を抱えながらも6月初めになってようやく卵の生産を始めることができるようになりました。

こうした中、大学時代の同級生(農学S43入学)から、メールネットワークに見舞いのメールが多く寄せられました。2020年11月に発生し多発エリアとなった香川県出身H・T君は「香川県で発生したとの報を地元の友人から聞き、千葉県でも発生しないか心配している」、千葉県職員であったM・I君は「父が“鴨場”に勤めていたこともあって“合鴨農場”は知っているから大変心配だ」、また同県職員であったK・S君も「野鳥に親しみを感じていたが、その背後にこの病の存在を知ってとても心配している」、山梨県在住のH・Sさんは「奪われる多くの鶏の命にいたたまれぬ思いだ」、埼玉県職員であったH・T君は「在職中に鶏インフルエンザが発生した養鶏場の鶏の処分に当たったことがあり、強制的に生命を奪わざるを得ない作業がとても辛かったことを思い起こした」、長野県で和牛を生産するT・M君は「狂牛病騒動の際に世話を受けたこと、同じ畜産農家ともあって大変心配している」、静岡県立農林大学校教官であったI・T君は「鶏インフルエンザ対策苦闘のいつかの休憩に“天龍茶”を」など、お見舞い、励ましを多くいただきました。これらは大学卒業後50年を経ても同級生の温かな絆を強く私に思い起こさせてくれました。

鳥インフルエンザの発生は“地球環境の更なる悪化”を表しているようです。この天災がこれからもいつ起こるかわかりません。「ケージ内多数羽飼育や密飼いをやめることも考えざるをえない。」と義弟は語っています。



## IV 目下 第一線で奮闘中

### 1. はじめてのオーダーメイド

石田 博文 (林学 S57)



大学卒業とともに故郷を離れ現在の地に暮らすこと早39年、退職を機に故郷の家にダイニングテーブルと椅子のセットを新調すべく、木工の職人にオーダーすることにした。これまでは機能が同じであればコストを重視することが当たり前であったが、今回はじめて所有する喜びを優先させた。

匠の世界に飛び込み、質の良い日用品造りを心がけていると謳うホームページと実直そうなプロフィール写真が決め手となり、直接工房を訪ね製作を依頼した。

材は群馬県産広葉樹にこだわった。天板の切出し、クッキーを用いた接合など、日々の生活では絶対に出会うことのない創作の場に立ち会わせてもらい、その都度要望を伝え、形にしてもらうことで、職人の思い入れを感じることができた。そこには依頼主と作り手との一体感があり、世代を繋いで使われる家具を創りあげる喜びがある。

昨年度定年退職を迎え、木材関連の団体に再就職し、木造住宅で使用する県産木材の利用を促進する事業の検査業務に就いている。家づくりは施主と施工者との信頼関係の中で良いものを造り上げる共同作業であるが、地域に根ざした工務店は、コストや機能性一辺倒ではなく地場産の自然素材を活かした地産地消、ヴィンテージ素材を活用した古民家再生など、それぞれ独自のこだわりのポイントを掲げ、匠の技を持つ大工さんが腕を振っていることを学ばせていただいた。

様々な面で高度化が進む社会であるが、技と時間に裏打ちされた、ホッとできる温もりの空間が益々求められるだろう。匠の技の伝承が不可欠であり、技を発揮する場を持続することが何よりも重要だと感じる。

今回テーブルと一緒に椅子も新調した。その一つはロッキングチェアであり、若い頃には見向きもしなかったものである。全ての部材は職人による切出しから始まっている。

還暦を過ぎた今、間もなくこの椅子がしっくりする時が来ると想像すると、この上ない喜びである。

蛇足だが、今回の寄稿に当たり久しぶりに府中キャンパスを散策した。樹齢90年ほどのケヤキ並木は新緑に輝いていたが、新型コロナウイルス第4波の影響か、人影はほとんど無かった。ワクチン接種が始まっている。トンネルの先が見えているので、月並みな言い方が学生たちには頑張っしてほしい。

### 2. ただいま帰りました。

青木 康浩 (生産博 H3)

2021(令和3)年4月に農学研究院に着任いたしました青木康浩と申します。

私は1982(昭和57)年に静岡県から上京、当時の農学科に入学し、3年生の4月に畜産学研究室に入りました。1986(昭和61)年修士課程、1988(昭和63)年博士課程に進み、1991(平成3)年3月まで府中キャンパスで9年間、そのうちあとより7年間を畜産研で過ごしました。1991年4月に農水省畜産試験場(つくば市)に入り、草地試験場(農研機構畜産草地研究所に名称変更、那須塩原市)、独立行政法人家畜改良センター(福島県西郷村)、農研機構北海道農業研究センター(札幌市)において、主に乳牛、肉用牛の飼養管理に関する基礎から応用にわたる研究に従事しました。この度、30年ぶりに教員として帰って参りました。もとより微力ではありますが、畜産学の研究・教育に精励する所存です。皆様にはご指導、ご鞭撻いただきたくお願い申し上げます。

私の学生時代から変わらない畜産研の大きな特徴は、世代を超えたつながりです。畜産業や関連業界、行



政・指導・研究機関など全国で多くの研究室卒業生が活躍されています。学会会場や出張先で、私も同窓の皆さんに思いがけずお目にかかることが少なくありません。毎年3月に開催する畜産研「追いコン」には多くの卒業生も駆けつけ、卒業・修了生の新たな門出を一緒に祝福します。世代を超えたそのような集まりは、他の研究室や他学でさえあまり類がないと聞きます。斯界の枢要を担う諸氏と中堅・若手、学生が談笑する場面は間違いなく相互にいい刺激となっているでしょう。新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて2年続けて中止となりましたが、この厄介な病原体と何とかつきあっていく目途が立ちましたら、また再開・再会できるものと信じています。

今回の着任を報告申し上げたところ、畜産研卒業生諸氏から、研究室出身、いわゆる生え抜き第一号の教授誕生だね、といったお言葉をいただきました。畜産学研究室は1954(昭和29)年創設、間もなく70年の節目を迎えますが、確かにその通りです。私自身それまで意識したことがなく、改めてのご指摘に一層身の引き締まる思いです。

牛舎から居室のある6号館へ戻る途中で、思いのほか富士山がよく見える日があります。建物など新しくなりながらも緑深い環境が依然残る、そんな「雲と自由の棲むところ」で、どちらかといえば身体で覚えた畜産学を進取の意気溢れる若者に還元したいと思います。

### 3. 農工大での貴重な経験と今の私

松浦 康次 (機シス院 H9)

私は農工大を卒業後、居場所を転々とした後、妻の故郷である新潟市に在住し、弁理士事務所を経営している。静岡県出身の田舎者の貧乏学生だった私は樗寮に入寮した。東京生活に憧れていたため、当年の新入生として最も早く入寮した。当時の樗寮は4人部屋であり、独特の寮生活には度肝を抜かれたものである。

私は大学2年迄は不真面目な学生であったが、父親の危篤を機にそれまでの怠惰な生活を改め、どの講義にも熱心に受講するようになった。そのお陰で成績が上がり、本学大学院にも推薦で入学することができた。

真面目に大学に行くようになると、英語や海外留学にも興味を持つようになり、4年次の夏休みには本学と姉妹校であるニューヨーク州立大学へ、大学院でもチェコ工科大学プラハ校への1年間の留学の機会も頂いた。この際、研究活動の一時中断と留学を了承して頂

いた指導教官に今も感謝している。プラハでは、手袋を2枚重ねても手が凍える程の極寒の冬を味わったし、日本人には余り馴染みの無いチェコ語を勉強したり、歴史ある建物で安価に音楽やビールを堪能したり、ナチスドイツ下での収容所跡地を見学したりと貴重な経験をさせて頂いた。



チェコ工科大学研究室での私  
(1995年頃)

その頃、既にバブルが崩壊し、就職難が始まっていたが、私はある会社に運よく入社できた。ただ、当時、海外で通用する研究者になるとの無謀な夢をみていた私は外資系企業に転職し、2年弱の間、米国生活を送った。この外資系企業への転職の際、プラハでの私の留学経験が採用担当者の目にとまったようで、農工大での経験が転職にも直接活かされた。

転職続きで「手に職」と「定住先」を求めていた私は、「技術」と「法律」と「語学」を扱う「弁理士」という国家資格があることを知り、東京の特許事務所働きながら受験勉強をし、なんとか合格することができた。

その後、新潟に移住することになったが、特許の仕事をしている中で、自分の顧客から、時折、私の学生時代にお世話になった農工大の先生のお話が出ることもあり、今も農工大との繋がりを感ずることがある。

以上のように、私は、幸運にも農工大で沢山の貴重な経験をさせてもらった。加えて、就職後の生活でも農工大での経験が活かされていると感じることが多々ある。因みに、今では頭が上がない存在である家内も農工大時代に知り合った女性である。

母校には感謝しかない。新潟では今の職業を通して地域貢献を果たしていくつもりである。

## 4. 挑戦の先に、成長あり

Vo Dong Vien (応化院 H16)



私は22年前に日本への留学を決心した。英語圏の国ではなく、日本語の漢字に興味を持ち、勉強すればするほど好きになった事が日本への留学動機のひとつだった。

日本での新聞配達では、新聞の文字が目に入り、ちょうど漢字

が好きな私は、毎日1～2文字を拾って辞書を引いた。そして少しずつ新聞の内容が理解できるようになった時の嬉しさは今でも覚えている。

日本語学校を卒業した後、亀山研究室の研修生として東京農工大学に在籍できた。その体験はいまでも忘れられない出来事で、私は日本の大学の良さに気づいた。事例としてプレゼンテーションスキルを挙げる。資料の準備ではストーリー性を考え、話し方・言葉選びなども重要だ。母国を含め他国では、そこまで学生を訓練させていない。ある海外での学生発表交流会の話であるが、亀山研究室メンバーは写真・図・グラフを多く使用して、なるべく文字を少なくして、分かりやすく説明した。しかし、他国の人は長く説明して、スライドはほとんど文字ばかりだった。皆さんは相手が分かるようにどう話すかについて興味ありませんか？私は数年間研究室と会社の仕事でプレゼンスキルを磨いたお陰で、今でもたいへん役立っている。

2009年の春に亀山研究室と共同研究でつながりがあった三光製作株式会社に就職した。この会社は人が成長できる勉強を重視し、人間力を磨くために100回以上続けている社内勉強会の「夢工場塾」がある。そこでコミュニケーションスキル・マナー・礼儀から専門知識まで勉強させて頂いた。私は毎回、何か新しい知識が習得できる期待でワクワクだった。

2010年初冬に転機が訪れた。支社としてENSHU SANKO VIETNAMというベトナム北部で初のめっき専業会社を設立した。場所の選定、ライセンス取得、求人や教育、設備の輸入通関作業など、経験のないことばかりで大変だったが、そこには楽しいことがいっぱいあった。それらを一つずつクリアできる度に自分は成長できたなと実感した。給料がもらえて、勉強もでき

る。これ以上に楽しいことはない。

『興味⇒ワクワク、楽しい⇒もっと知りたい(挑戦)⇒収穫や達成感の喜び⇒成長』となり、すべて興味をもつことから始まる。その体験を通じて、人は変わり、成長する。これは私の体験の気づきである。

世の中は激しく変化しているからこそ、そこにチャンスがある。今こそ勉強して、生き残り、勝者になる時。社員全員と一緒に自分と会社をどう成長させるか、コロナ禍を乗り越えて幸せになれるように日々なんでも興味をもって、勉強している。そのチャンスを頂いた先生、上司、先輩、友人、部下、後輩たちに私は感謝している。

## 5. 大学教員になって：農工大との違い

箱山 智之 (機シス博 H28)

箱山(関口) 千春 (機シス博 H31)

筆者らは機械工学科桑原研究室にて博士後期課程を終了し、現在はそれぞれ東海国立大学機構岐阜大学と中部大学で助教を務めている。今回は、大学教員になって感じることを紹介していきたいと思う。

岐阜大学は、2020年4月に名古屋大学と法人統合し、東海国立大学機構の傘下となった。現在の国立大学は機能分化が進められ、名古屋大学は農工大と同じ卓越した教育研究型、岐阜大学は地域貢献型に分類されている。これからの人口減少の中でも、それぞれの強みに特化することによって、機構全体として多様な研究領域をカバーできる。岐阜大学では、地域貢献型として産学連携に力を入れている。筆者は地域連携スマート金型技術研究センターに携わり、塑性加工のIoT化に取り組んでいる。研究系大学の研究と比較し、より現場に近い研究開発となるため機密性が高く、論文や特許にならないことがあるものの産業界に貢献する実用的な研究開発に携わることができる。今後は国立大学の特化がさらに進むと推察されるので、教員も固定概念を廃し、時代の流れに柔軟に対応することが要求されてくるであろう。

中部大学は愛知県春日井市に位置し、7学部26学科を擁する総合大学である。全学生1万人余が1つのキャンパスに集うことから「ワンキャンパスならではの多様な交流」を売りの一つとしている。これにより他学部学生との交流の機会が多いだけでなく、事務システムを効率的に配置できるという強みがある。

授業負担は国立大に比べて多く、筆者は週5コマ～

7コマの授業をこなしている。教えることで教えられるというのは本当にその通りで、こなすというよりは毎週毎回体当たりといった心持ちである。各種推薦入試と一般入試で半々くらいずつ入学してくるため、学力の幅がとても広いのも特徴である。授業は多く、大学院生は少ない中で研究を動かすのはなかなか難しいことではあるが、土地柄製造業が多く、中小企業との共同研究で勉強できることも多い。また、愛知県内や東海圏のみを対象とした財団系研究資金については毎月のよ

うに案内があり、その点は都内にはない特徴であると感じている。

以上、地方国立大&私立大で感じることを述べた。とにかく研究だけやりたいという人向きではないが、教育というのもまた非常に重要であると日々感じさせられる。学生諸君のみならず、大学への転職を視野に入れている博士号持ち企業人の方々にとっても参考になれば幸いである。

## コラム〈苦難を乗り越えて 2〉

### 東日本大震災からの海岸防災林の再生

佐伯 明広 (林産 H3)

今年の3月で東日本大震災から10年が経過しました。震災からの復興も進み、東日本大震災の津波により被災した仙台湾沿岸部の海岸防災林(約1,100ha)の復旧工事も完了しました。

仙台湾沿岸の海岸防災林の歴史は、江戸時代より前から記録があるようですが、本格的に造成が行われるようになったのは、伊達政宗が農地開拓にあわせて潮風や飛砂を抑えるために松林づくりを指示したことからと言われているほか、青葉城築城の用材搬路として開削した貞山堀造成時に植栽したとも言われています。震災前には200m~500mの林帯幅で海岸防災林が存在し、歴史が長いこともあり、林齢10年足らずから200年以上まで多様な構成により、沿岸部に沿って見事な景観の形成と保安林としての機能を果たしておりました。



東日本大震災では、仙台湾沿岸でも7m程度の津波高であったと推定され、根返りや幹折れの被害を受けた樹木の一部は流木化し、建築物の損壊や震災廃棄物の増加など、被害を助長するものもみられましたが、海岸防災林の効果として、津波波力の減衰効果と漂流物の捕捉効果が確認されました。

震災後の海岸防災林の再生にあたっては、津波に対して根返りしにくい林帯を造成する観点から検討が行われ、地盤高は地下水水位などから2m~3m程度確保される生育基盤造成する盛土を行い、マツ材線虫病に抵抗性のあるクロマツを主体に植栽が行われました。また、沿岸部の復興にあたっては海岸防災林が防潮堤と一体となって津波を防御する多重防御の施設としても位置付けられました。

歴史ある仙台湾沿岸の海岸防災林ですが、津波による被害を経て新たな形で生まれ変わることとなりました。再び保安林としての機能を十分に高めていくには、これからの保育・管理が重要となってきます。地域住民や民間団体等の協力を得ながら、再び沿岸部のにぎわいを取り戻すことができたらと思っております。宮城県へお越しの際は、是非、新しく生まれ変わった海岸防災林をご覧くださいと思います。

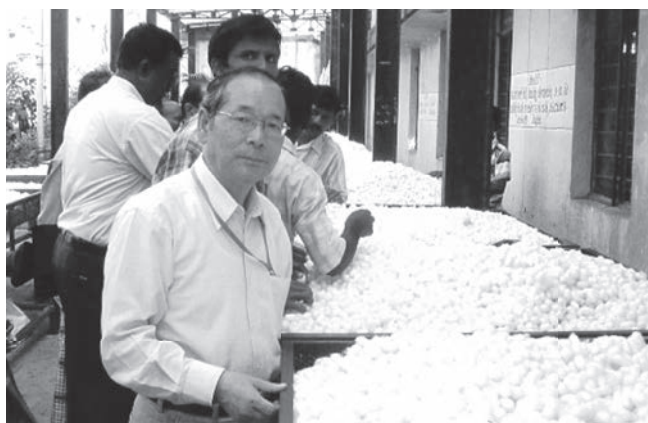
最後になりましたが、東日本大震災における復興支援について皆様方に心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、東日本大震災における復興支援について皆様方に心から感謝申し上げます。

## V 海外で喜びと感動に浸る

### 1. JICAインド養蚕プロジェクト・余話

小嶋 桂吾 (製糸 S42)



バンガロール市郊外のラマナガラム生繭市場で

私は、先の本誌「農工通信100号」で、3期16年の長期にわたる標記プロジェクトが成功裏に終了したこと、及びその概要を報告した。今回、私がこのプロジェクトの普及(Extension)担当の専門家として南インドの農村地帯で得た異文化体験の一端を披露したいと思う。

2004年7月、我々日本人専門家はカルナタカ州マイソール市のホテルに滞在していた。出発は朝7時30分、既にインド側カウンターパートが運転手と共にトヨタのランドクルーザーに乗ってホテルの玄関に迎えに来ている。今日はマイソール市郊外の農村地帯でJICA主催の二化性養蚕の啓発活動(Enlightenment Program)が催される日だ。JICA事務所のインド人運転手は3人おり、それぞれ宗教が異なる。ヒンズー教の運転手はいつも車のフロントにガネーシャ(象の神様)の像を置いている。キリスト教の車にはインナー・ミラーからクルスが下っており、十字を切ってから発車する。イスラム教はもっと大変だ。ラマダンの時節は、昼間は運転手も食物を一切口にできない。運転手は食事の時は我々と同席せず、ホテルでも彼らは車内で寝る。

インド側カウンターパートは、中央蚕糸研究訓練所(CSR&TI)等に所属する研究員で、栽桑・育蚕・病理・製糸等の専門をもっている。普及対象地域(南インド3州)のそれぞれの言語が異なることから、インド政府は

現地語ができる人材をカウンターパートに指名した。彼らは日本のつくば市や松本市等の国の蚕糸研究機関に長期留学の経験があり、日本語も達者な者が多い。勿論、皆博士号をもっている。

ホテルを出発して1時間余で会場に着く。バナナ園やココナッツ林に囲まれたその場所にインド模様の大きなテントが張っており、州の役人、村の名士、農民たちがすでに着席している。今日の活動の議事進行は前日にカウンターパートと打合せ済みだ。早速、開会のための儀式がある。祭壇があり、参会者によるろうソクの点灯式が始まり、線香の香りが漂う。儀式が終了し、いよいよ私の出番だ。私が主催者として最初に英語で簡単な挨拶をする。「プロジェクトの目的は何か? それは二化性養蚕の普及であり、村を豊にするためだ。JICA Farmerを増やそう。」そして、私の挨拶のメは、いつも“(Please get much money!)” 続いて同行のカウンターパートから二化性養蚕技術の紹介がある。栽桑や育蚕、消毒方法等の日本から学んだ最新の養蚕技術の解説だ。これは現地語でおこなわれる。質疑応答の時間も終わり、次は表彰式だ。すでに二化性養蚕に取組み優秀な成績を挙げた農家には免許状(Certificate)を贈呈し、JICA Farmerに認定する。会も終了に近づいた頃、会場のテントの裏からおいしそうな匂いが漂ってくる。昼食の時間だ。参加者全員で車座になりバナナ・リーフに盛られた本場インドのカレー・ライスを食べる。超辛い。

午後は農家の視察だ。南インドの農家は牛(Cattle)を飼っている。牛は農家にとって農耕や運搬に必須であると共にヒンズー教の神様だ。邪気を祓うということで牛糞を家の壁や床に塗る風習がある。不衛生この上ない。二化性養蚕技術は、母屋とは別棟の蚕室や上蔭室を設け、蚕期ごとの徹底した消毒の励行が求められる。勿論、牛との同居は厳禁だ。インド社会全体の衛生観念の向上が急務である。

インドの農村では、実際に養蚕作業に従事する者と経営者に区別がある。講習会で噴霧器を用いた蚕室の消毒の実演(Demonstration)で農民を召集しても、肝心の実際に作業に従事する者が出て来ない。

インドではカースト制度のもとで、貧しい「土地なし農民」が問題となっている。又、養蚕をする農民のほとんどはヒンズー教で、製糸業を営む者はイスラム教が

多いといわれる。これはヒンズー教で殺生(殺輔)が禁じられていることが理由とされる。養蚕と製糸の間に断絶があり、養蚕農家は近郊の生繭市場で生繭を販売して完結だ。製糸は小規模のものが多く、生繭市場から毎日生繭を購入し営業する。繭乾燥機はなく、直接煮繭する。繰糸法は手接緒の定粒繰糸が主流で、繰糸機の前で大勢のインド娘が並んで作業する光景は壮観である。

インド社会には、まだまだカースト制度や宗教の壁がある。今回、JICAプロジェクトによる日本の養蚕技術をインドに移転する試みは一応成功した。今後、二化性養蚕技術が定着し、高品質生糸・高級絹織物の生産に発展するには、インド政府の社会制度改革の推進、養蚕・製糸・絹業の連携、更には企業設備等の近代化が重要である。

---



---

## 2. タイムマシーンに乗って

---



---

片山 克己(植防 S53)

卒業後、長崎県で普及員、研究員を経験、1991年に県職を退職しJICA等の専門家として海外での仕事を始めました。2019年まで、計22年数か月を発展途上国で過ごし、タイム・トラベルを体験しました。

1)インドネシア(滞在合計7年):1992年ころの発展段階は日本でいうと昭和前半くらい。住んでいたバンドンを訪ねてきた母(1929年生れ)が、街の市場は戦後すぐの日本のヤミ市にそっくりだと言っていました。経済成長し少しお金のある人たちが洋風の食生活を取り入れ始めました。需要の伸びた種馬鈴薯のプロジェクトで病害虫を担当しました。

2)シリア(同3年半):親子2代の独裁政権を支える秘密警察は、日本の戦前、戦中の特高を連想させるものでした。秘密警察があちこちに潜入し反政府的な言動を監視。住んでいたアレppoの治安が良いのは秘密警察が見張っているからとの話でした。仕事は種馬鈴薯を生産する施設整備と運営でした。羊のヨーグルトと肉が美味しかったです。

3)ミャンマー(同3年1か月):中国雲南省に接する山岳地帯で働きました。ケシ栽培地帯で、これに代わる換金作物の栽培を改善することが目的です。色々試しましたが、茶も有力な換金作物です。低収量品種の疎植、土壌流亡、無施肥、非効率な手摘み等の問題がありました。タイムマシーンで日本の100年前に戻った感じがす。優良苗の配布や日本の茶鉢の紹介を行いました、

今後どうなるか。

4)ラオス(合計8年8か月):モチ米を常食にしている珍しい国です。稲種子生産、その後は稲の栽培改善に従事しました。2005年、赴任したときは全て手植で、手取除草、ほとんど無肥料、収穫も鎌で。日本でいうと1960年代以前でした。農村部の労働力不足は2010年ころから始まり、直播栽培や除草剤使用が広がりつつあります。

海外で経験したことは社会の仕組み、農業生産、その個別技術など広い範囲に及びました。タイム・トラベラーの視点でこれらを見ると発展段階を客観的に見ることができます。「遅れている」と片付けずに「発展過程のどこなのか、どちらに行くのか」を見極めることが大切です。

1989年、連合大学院初の論博の学位記、農博乙第1号を頂きました。長崎県での研究をまとめたもので、諸先生方には大変お世話になりました。本質ではありませんが、タイム・トラベルで博士号を持っていると一目置かれ、助かりました。



重い除草機を押す。現地の人に後ろからあおられ、苦しい

---



---

## 3. 原点はホルチン沙地

---



---

岡(山下) 真里(自然院 H19)

私は広島で記念・広告写真を撮るフォトグラファーをしています。20代後半に写真で町おこしの仕事をしたいと動き始めたのですが、きっかけは農工大での熱い3年間でした。

修士課程より農工大へ入学し、昨年ご退官された土屋俊之教授の研究室に在籍していました。他大出身の私は学生の大きさに面食らったのを覚えています。

さて、私はこの3年間を内モンゴル自治区にある、ホルチン沙地で日本のNPOが主導する沙漠の緑化活動

に参加しながら「地元住民による最良な緑化手法を見つける」ことを目的に研究をしていました。修士2年時には1年休学して、90世帯ほどが集まるモンゴル族の集落を対象に「聞き取り」と、沙漠化した土地での人間活動の観察をしました。怖いもの知らずの若者でしたから、他人の家に上がり込んで話を聞くことや、放牧についていたり、農業を手伝ったりすることに遠慮を感じることなく、ガイガイ集落に入り込んでいました。

当時の調査地では、公道を馬車や三輪車が走り、暮らしはほぼ手作業で、家の外でも中でも人はいつも働いていました。田植えは手植えだったし、備蓄用の草刈りは死神が持っているかのような巨大な歯がついた鎌を振りかざすようにしてやっていました。家では、井戸水を汲んで貯水したり、靴を作ったりしていました。日本でもこうした光景を懐かしいと思う世代の方もいるかと思いますが、私にとっては写真や映像の中だけのものだったので、人々が働く姿がより一層力強く見え、調査をしつつも、興奮しながら記録写真を撮っていました。被写体が生き生きとしているので、写真は記録というより作品のような仕上がりになっていました。

調査では経済的なことも聞いていましたので、お礼に撮りためた写真をプレゼントしました。当時貴重だった写真はたいそう喜ばれ、中には、自身の結婚式の

時に家の玄関を埋め尽くすほどに写真を貼って飾ってくれた人もいました。その喜んでくれた反応はかつて経験したことのないもので、写真を撮ることが何か役に立つのかもしれないと手ごたえを感じました。それが今の仕事へ就く気持ちへとつながるきっかけになったと思います。

さて、フォトグラファーとなった今、希望の写真を撮らせていただくのに10年かかりました。私生活では内モンゴルで撮れたような生き生きとした被写体を探しまくる日々です。また、前号の表紙にも起用していただきようやく母校に恩返しのできた気持ちでおります。



モンゴル族と生活する馬



## 樗寮の思い出



昭和44年ごろの樗寮集合写真(「樗寮の思い出」P8より)

## VI 実体験から思案を巡らす

### 1. 大学生への就活支援、 キャリア育成を考える (キャリアアドバイザーを経験して)

深水 智明 (織工 S38)

農工大学生のキャリア支援について、企業や働き方等をテーマのOB社員と学生との交流会、見学会等で、“農工大支援ネットワーク(AT-Netz)”同窓会の協力を得ながら進めてまいりました。

昨今は、私共の学生時代とは比すべくもない程の学生数であり、学生の社会的立ち位置も変化しています。それは企業での働き方、やり甲斐等へも影響を与えているようです。そのような背景を踏まえ、学生への進路支援は大学にとって重要な課題になっております。

さて、大学の教育について、中教審における高等教育の在り方の議論の中で、キャリア教育を「大学教育課程全体の中で位置づけ」し、2011年には「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が議論され、「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の専門分野の学修を通じたキャリア教育」が定義されています。

そのような状況の下で、学生のニーズや大学側の学生対応上、近年には大学の就職部がキャリアセンター等の名称に変更されつつあり、学生のキャリア育成への関心も高まっているようです。

大学教育の現状は、専門科目に重点があり、特に理系では、カリキュラムに余裕はない状況と思われます。昔は学生数が少なく、企業は学生をある程度は特別視し、企業内でも幾分かのキャリア教育に心掛けていました。しかし、現在は企業にその余力はなく、学生にも即戦力が望まれる状況です。

経団連調査(2018年)では、企業が学生に求める人材能力ランキング(理系)で、上位は1.主体性、2.実行力、3.課題設定・解決力、4.協調性等であり、全体(20項目)の過半数は態度的能力、感情知能(EI)に関わるものです。これらは社会的教養により培われる能力と言えます。

農工大での約12年間のキャリア・アドバイザー経験から、学生の企業や産業関連の知識、働きを考えるキャリア形成への認識、考察が希薄であることを強く覚え

ました。従って、キャリア教育をキャリアアドバイザーの支援力を含めて、大学としてさらに充実させる必要があるかと思われます。

専門教育は大学としての存在感の主軸で、それは社会の技術発展・革新に必須と考えます。一方、学生にとっては、専門教育のみならず、教育の中に若干の教養的要素(一般教育課程よりも社会性の高い)へのアプローチがあれば、専門教育と教養的側面とが相まって、彼らのキャリア育成に繋がると考えられます。それによって就活のエントリーシート、面接等対応力のレベルアップ効果も期待できるでしょう。すなわち、換言すれば、企業ではハードスキルに加えてソフトスキルの比重が増すので、それへの対応も望まれます。

例えば、卑近な例では、研究の合間に、研究に関わる物質、機器等のメーカーの研究開発戦略、生産過程、販売戦略、人材育成・活用、業界動向等々に触れる機会を設ければ、それを機に学生自ら企業、産業への関心を高め、将来のキャリアを考える機会になると推察できます。理系ではさらに教育に技術と社会・経済・倫理との関連性や社会的教養要素を若干でも取り込めば、学生のキャリアデザイン形成に寄与し、企業人、社会人としての総合的な人材育成にも資するのではないのでしょうか。



OB社員と学生との交流会

## 2. 「みどり」のチカラを社会課題の解決に活かす

～農工大ネットワークで公開シンポジウムを共催～

佐藤 留美 (林学 H5)

生まれ故郷の仙台から東京に来て驚いたのは、想像以上に豊かな自然が各所に存在していることでした。東京といえば西新宿の高層ビル群が思い浮かびます。しかし、大学のまわりに広がる畑や林を目の当たりにして、東京のイメージは完全に覆されました。奥多摩の山々、丘陵地の里山、多摩川が削った崖線と湧水、玉川上水から分水した用水路。台地には屋敷林と農地、雑木林がセットとなった風景が広がり、都心には皇居や庭園があり、干潟も見られ、さらに島しょ地域も東京なのです。1千万人を優に超える人口を抱えながら、こんな素晴らしい自然環境を擁する国際都市は世界中を探してもないのではと思います。

一方で、この自然環境が都市化とともに次々と失われつつある現状を前に、私にできることはなんだろう？と考え続けた学生時代でした。「身近な自然の価値」を卒論のテーマとし、その土地の自然はその土地の文化と結びついている。その「地域性」と「多面性」こそが価値であるという結論を導きました。1997年に「NPO birth」、2018年に「Green Connection Tokyo(GCT)」と二つのNPO法人を設立。人と自然の関係性に着目し、社会課題の解決にあたる「みどりの中間支援組織」として、緑地を拠点としたまちづくり事業を進めています。

そのような活動を行う中、東京農工大同窓会イノベーション研究会(イノ研)よりお声がかかり、2020年11月28日に、イノ研が主催となりGCTと東京農工大学大学院農学研究院 自然環境保全学部、同窓会東京都



公開シンポジウムの講師陣と主催者

支部との共催で、公開シンポジウム「森林の未来は、私たちの未来 ～多様な社会課題の解決を目指して～」をオンラインで開催し、盛況に終わりました。当日は、農学部地域生態システム学科の5人の教員(戸田浩人氏、白木克繁氏、小池伸介氏、岩岡正博氏、加用千裕氏)と、自由学園環境文化創造センターの鈴木康平次長をゲストに迎え、ご講義いただきました。多様な講師陣より、地球環境、防災、動植物、エネルギー、木材製品、環境教育に至るまで、森林が持つ多面的な機能が存分に語られ、私がモデレーターを務めたパネルディスカッションでは参加者から多くの質問が寄せられ、コロナ禍の中、みどりに対する期待値がさらに上がっていることを感じました。またオンライン開催が功を奏し、遠方の卒業生など全国からのご参加がありました。快くご協力いただいた講師の方々、参加者のみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。このシンポジウムを通して、農工大の学術や研究は国内外のさまざまな社会問題を解決する重要な指針として、今後ますます必要とされるであろうことを実感しました。私自身も今回いただいたご縁を糧に共に目指す方向に向けて、現場での実践を重ねていきたいと思えます。

### 東京農工大学キャンパス点描 (農学部)



農学部グラウンドを背に1号館を望む。左手前に生協食堂、2本のケヤキの間に古い武道場があった。



正門から本館に向かう左手に東京農工大学の前身である東京高等農林学校の設立に物心両面で尽力された大久保利通公の碑がある。



農場から農学部研究棟、講義棟を望む。



## VII コロナ禍でも気概を持って過ごす

### 1. 私のコロナ体験

鈴木 敏明 (農化 S39)

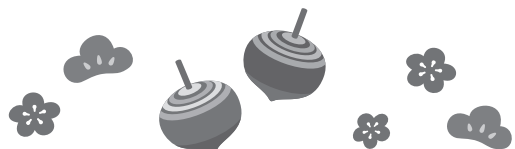
コロナ禍で緊張が続く毎日ですが、鶏のコロナ感染症で同様の思いをした私の経験と現在のコロナ禍への思いを書いてみます。配合飼料メーカーの研究所で動物栄養学の仕事をしていた私は、平成5年に従業員50人ほどの北海道の子会社に社長として赴任しました。そこで直面したのが、鶏伝染性気管支炎(Infectious Bronchitis=IB)というコロナウイルス感染症です。会社は種卵を生産して孵化し、初生雛約400万羽およびその一部を餌付けして卵を産む直前まで育て大雛とし、双方を道内および東北、関東に販売していました。大雛は売上の約50%を占めますが、その大雛に卵を産まない無産鶏が多数生じ、大クレームとなり、営業部長から「もう販売できません」と告げられるほどの会社のピンチだったのです。私は無産鶏を北大獣医学部の病理学教室に持ち込み、IBウイルスよると見られる卵巣のダメージがあるとの報告を得ました。IBに関する多くの論文を読み、研究者にも面会しました。かねてから研究所で若い人達と免疫と感染症について勉強して来たことが大変役立ちました。

雛のIBウイルス抗体価は、餌付けから次第に陽性を示す雛が増加し、いずれ全ての大雛の抗体価は陽性になります。一旦感染しても無症状か軽症で回復します。しかし、その陽性拡大の速度は鶏舎のタイプにより異なっていたのです。何故このようなことが起こるのか？私は、まず、鶏ケージの給水システムの違いに注目しました。水樋方式といって、雛を収容する並列のケージを貫く流水樋による鶏舎と、ケージ内に1個ずつ、ケージを貫くビニルの水道パイプにニップルドリンカー取り付け、雛が突くと水の出る方式の鶏舎がありました。IBは呼吸器感染症ですから、飛沫感染が主要な感染方式と考えられます。しかし、IBウイルスは初生雛に感染すると早期に腸管に出現するという論文があり、大変注目しました。水樋は、鼻汁や唾液の他に、しばしば糞便で汚染され、上流から下流の雛まで一気にウイルスの感染が広がる可能性が考えられます。その結

果、餌付け早期の感染拡大が起こり、一部の抵抗力の弱い雛が卵巣に永久的なダメージを受け、無産鶏となるのでしょうか。一方、ニップル方式では初期の感染拡大は起こらず、飛沫により緩慢に感染が全群に進行し、そのため初生雛のダメージが少ないと考えられます。以上の仮説のもとに、すべての水樋方式をニップル方式に変更することにしました。鶏舎の設備改修には大きな費用が掛かり、貧乏会社の新米社長には辛く重い決断でした。しかし、これが見事に的中し、改修後のクレームはほとんどゼロとなったのです。

あれだけ真剣に対応したコロナウイルス感染症と同類の新型コロナ感染症に、今、私自身や世界の人々が感染の脅威にさらされています。私にとっては不思議な感覚です。私のやったことは、有効な手段の無い中、水の飲み方について一種の行動変容を雛にもたらしたに過ぎません。ちょっとした行動変容が大きな感染の有様の変更をもたらすように思います。日本人は西洋人に比べて新型コロナウイルスに対する被害は少なくなっています。私は米国で2年生活し、欧米を何度か仕事で訪問しました。欧米社会について少しは知識があります。欧米に比べれば、日本人の衛生面での行動は、既にかなり変容(!)しているように思えるのです。現在ではなおさらです。楽観的過ぎるかも知れませんが、第2、第3の大きな感染を経験することなく、現在程度で行くのではないかと考えています。これは、私の予想というより願望というべきでしょうか？しかし、結局はワクチンが必要でしょうか。このコロナ問題はどのように終息するのでしょうか？他人事のような言い方で恐縮ですが、興味津々で固唾を飲んで見守っています。

追記：原稿は執筆当時(令和2年7月)のままです。第4波を経験しつつある現時点での大きな変化は、有効なワクチンが開発されたということです。これほど早く有効なメッセンジャーRNAワクチンが開発されたことに感動し、科学の進歩の素晴らしさを実感しています。この小文が掲載される頃には、コロナ禍は終息し、インフルエンザと同じような、ありふれた感染症の一つになっているかも知れません。



## 2. コロナ禍に思う

服部 武弘 (農工 S39)

現下、コロナウイルスが蔓延しワクチン接種が始まったものの終息の行方が見透せない中、マスク着用、手洗い励行、三密回避、外出自粛などなど、軟禁状態に陥っています。しかし、世間では野外キャンプが密かに流行っているようで、キャンプ用品の販売が盛況らしいです。私も山歩きをよくするのでキャンプをしますが、高齢者のソロキャンパーによく出会います。しかも、移動手段は四輪車でなくて、スーパーカブ程度の軽二輪車です。こんな同好者を見ると私もこんなスーパーカブで林道走りをいつかトライしたいと言う思いにかられます。また、年をとると家を出てキャンプ生活をするのは、かなりの気力がいらしますが、このような同好の士に出会うと、本当に勇気づけられます。

テレビでは、日本百名山など山歩きの映像がしばしば放映され、私もこの種の番組を好んで見えています。これを見ていると自分が登った時の状況が思い出され感情が高まります。脳の活性化にもつながりボケ防止の効用もありそうな気がしてありがたいことです。また、テレビ番組の山歩き人は有名俳優や芸能人だったのですが、田中陽希氏のような登山タレントが出現して、プロ登山家の山での身の処し方を見せてくれることは、登山のレベルアップにつながったのではないのでしょうか？

海外登山の放映も結構あります。今まではそれらを憧れの目でみていましたが、今ではそのルートさえわかれば、海外登山の旅行会社に連絡してツアーなりオプションの個人旅行を申し込みれば実現できる程に、簡便になっています。ヒマラヤトレッキングでは、現地(ネパール)のツアー会社にガイドとポーター付きの個人旅行を申し込み、安くてフレキシブルな山旅が楽しめます。また、ネパールには、日本人が経営するツアー会社や日本語を話すスタッフを置いている会社が結構あり、ネットで容易に探すことができます。

ちょっと変わっていて面白いのは、大手の海外旅行会社のツアーです。大型のキャンピングバスで移動してテント泊しながら観光地巡ります。昼飯は自腹で、勝手に食堂で食べるようになりますが、朝夕食は、宿泊地の食料品店で、皆で手分けして食品を調達し、調理して食べます。食事中にガイドが色々現地の話しをしてくれたり、質問したり、仲間同士で話したりと深い交流関係を結ぶことができ、思い出深い旅となります。

私がこのように、旅するノウハウを得て旅する元気

を持ちえたのは、在学中にワンゲルで活動した経験のお陰でしょう。定年までは教育で付けていただいた能力で無事に社会生活を過ごすことができ、その後は、部活で得た趣味力で無事に過ごさせていることに、“母校よありがとう” “友よありがとう”と感謝の思いで日々過ごす毎日です。



## 3. コロナ禍。 日本の食料確保は大丈夫か！

前之園 孝光 (獣医 S44)

2020年、新型コロナウイルスが、世界的な感染拡大(パンデミック)で、人の出入国も制限され2021年も世界の状況は大変です。

1. 2020年のノーベル平和賞は、世界各地で食料支援を行う国連機関、世界食糧計画(World Food Programme = WFP、本部ローマ)に授与されました。

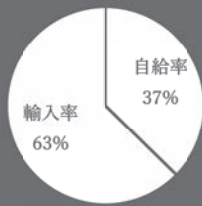
ノーベル賞委員会は「新型コロナウイルスの感染拡大が全世界で飢餓による犠牲者の数を急増させており、食料援助の必要性が高まった」とし、WFPが新型コロナウイルス流行下で活動を強化したことを評価しています。

「コロナ禍」のもと、食料困り込みのために農産物・食料の輸出を制限したのは累計で20カ国に達しました。また、出入国制限の影響で日本では中国やベトナムなどアジア圏からの外国人技能実習生の確保が難しく、農業の生産現場は人手不足に悩まされています。「新型コロナウイルスの感染拡大は、食料安全保障を見直す契機」にもなりました。

2. 日本は世界最大の食料輸入国であり、2008年(平成20年)財務省貿易統計によると、食料輸入額は約5兆6千億円で世界全体の10%を占めています。

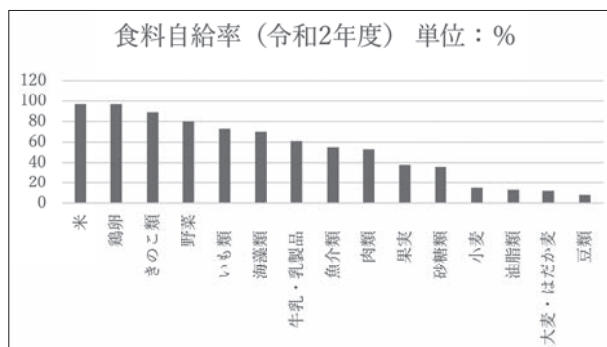
令和2年度のカロリーベースの食料自給率については、原料の多くを輸入している砂糖、でん粉、油脂類等の消費が減少したものの、米の需要が長期的に減少していること、小麦が特に作柄が良かった前年に比べて単収が減少したことにより、前年度より1ポイント低い37%となりました。また、生産額ベース総合食料自給率は66%でした。

### 供給熱量ベースの総合食料 自給率(令和2年度)



#### 3. 食料のカロリーベース自給率(主要品目別)

農林水産省の試算では日本の2020年(令和2年)度の品目別自給率は、高い順に米97%、鶏卵97%、きのこ類89%、野菜80%、いも類73%、海藻類70%、牛乳・乳製品61%、魚介類55%、肉類53%、果実38%、砂糖類36%、小麦15%、油脂類13%、大麦・はだか麦12%、豆類8%と続いています。



コロナ禍で、一部の国が農産物・食品の輸出制限を行いました。現時点では国民への食料供給に大きな問題は起きていない。しかし、中長期でみれば、世界の人口は途上国を中心に増加し、食料需要は増大するほか、気候変動や大規模な自然災害など、リスクは多様化しています。世界有数の食料輸入国である日本は「総合的な食料安保の確立」特に、国内の生産基盤の強化に取り組む必要があります。

そのためにも、東京農工大学の果たす役割(衣食住等)は大きいと考えております。

東京農工大学同窓会の益々の発展と会員、関係者の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致します。

#### 4. ステイホームの一考察

芳賀 伸 (林学 S47)

ダイヤモンドプリンセス号での新型コロナウイルス感染から1年半が経過し、その間に3回の緊急事態宣言が出される中、不要不急の外出は自粛し、3密を避

け、現在は7月初旬のワクチン接種を待っている状況です。私の場合は、自分自身の存在自体が不要不急であることから、どのような行動で過ごすのが良いのか思慮してしまいます。そんな中で、この1年近くをどのように過ごしたかを大変個人的な事柄ですが、振り返ってみたいと思います。

私は農工大の学生であった時分、通学には二輪車を使用していました。卒業後は就職先が建設業でもあり、国内の転勤が多く、卒業後の約15年程は二輪車からは離れていました。その後東京に配属が決まったのを機に、再び二輪車に乗るようになりました。そして学生時代と同様に手に入れる車両は中古車に限られていました。働いてからは、新車の購入も可能でしたがあえて中古車にしたのは、これらの車両は、乗るだけではなく整備する楽しみがあったからです。鉄道マニアには、乗り鉄と撮り鉄があるように、二輪車の趣味人にも走り回ることが命という人と、整備を楽しむ人の2種類があります。私は後者の方ですが、自分で整備した車両でツーリングを楽しむことに喜びを感じています。そんなわけで、現在所有している数台の二輪車は1965年から最新で1989年に製造されたいわゆる旧車と言われるものです。そしてステイホームと言われる中で、10年近く前に購入して手付かずであった1968年製の不動車(ヤマハAS1)の再生作業に昨年の春から取り掛かりました。再生趣味人が一番苦労するのが、再生に必要なパーツの確保になります。何せ半世紀も前の車両の部品は中々見つかりません。必要なものは国内外からネットを利用して調達したり、新たに作るほかありません。このようにして確保したパーツを使い、サビが見られる個所の再塗装や再メッキをかけた後、組み立てていきます。資金はともかく時間は十分あるので、子供の時のプラモデル製作の要領で、嬉々として組み立てていきます。その為には当然二輪車整備の知識やスキルは必要ですが。このようにして結局、約1年かかって写真のように、とりあえず完成にこぎつけました。現在は近隣を走行して、不具合な箇所を見つけ出し修理している段階です。

このように再生自体を楽しむ根拠には、これらの車両は当時の技術の粋を集めて生産されたもので、放っておけばスクラップとなってしまうのが忍びない気持ちがあるからだと思います。ですから自称「機械遺産保存協会(そんなものがあるのかどうか知りませんが)」の会長を自任しています。また、大量生産大量消費に対するアンチテーゼであるかもしれませ



甦ったヤマハAS1(1968年製)

ん。こうしてマニアックでどうでもいい理屈をつけて、あだこうだ頭を使うことで、ステイホームをやり過ぎてきました。こんな過ごし方を他人に推奨する気持ちは少しもありませんが、自分自身としては、他人に迷惑をかけずに、そこそこ充実した時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。

これからオリンピックが開催され海外からの人流も増加していく中で、ワクチン接種率が上がったとしても、どんな世界が待っているのか見当もつきません。今年5月に17年連れ添った愛猫を看取りました。彼らは未来を描くことはないので、当然、自分の死は意識しませんから死の直前まで毅然として、精一杯生きることには徹していました。私も今のこのような事態の中で、将来についての杞憂はあるものの、それだけを心配していても、あまり前向きな姿勢となりません。自分として出来ることは限られています。毎日を一生懸命精一杯生きることの積み重ねの先に未来があると考えています。

## 5. 福井県のコロナ対応

新海 隆介 (環・資 H12)

私は福井県庁に勤めています。周知のとおり、農工大卒業生には官公庁勤務も多く、新型コロナへの自治体の対応は興味のあるところかと思ひ、寄稿文のテーマと致しました。

### ●なぜ福井県なのか

当県でのコロナ対応、全て上手くいっている訳ではありません。他県同様、試行錯誤と困難の連続です。しかし、全国の医療従事者向けアンケートでは、新型コロナウイルス対策のリーダーシップに関して、当県が第1位となり、その取組みは「福井モデル」として官邸からも注

目される事になりました。

### ●福井モデルとは

福井モデルには、主に次の4つの柱があります。

1. 徹底した積極的疫学調査
2. 幅広いPCR検査
3. 感染現場の状況把握
4. 先手先手の対策

これら特に1～3は、他の都道府県でも実施されていますが、徹底度合いには差があると感じます。感染経路・原因の追究において当県は徹底しており、その結果による対策に説得力が生まれます。

### ●先手先手の対策

福井モデルを成功例たらしめたものは、この先手先手の対策です。対策自体の効果もさることながら、何より大きいのが県民からの信頼です。

特に対策初期の遅延・失敗は、その後、どんな良い施策を出しても県民の協力を得にくくなります。福井県では、様々な取組みを全国初として実施した事により県民の信頼を得て、他の施策もやりやすくなりました。全国初の例としては「医療従事者向け手当」「軽症者用の宿泊療養施設」「県民向けマスク購入券」などがあります。

### ●職員から見たポイント

このような先手先手を打つ施策を実行できたのはなぜか。これは組織体制にあると考えます。

福井県では、職種関係なく全ての職場から「マニュアルがなくとも動ける」職員をピックアップし、コロナ対策チームを組織し、対応を一任しました。財源は驚く事に「基本的に使った後で考える」体制としました。この2点が揃えば、結果は明らかです。

優秀な職員を集め大きな権限を与えれば、おのずと成果が出る。今もコロナ対応が続く最中ですが、この体制作りが何より行政の肝と感じた経験となりました。



福井県庁外観

## 東京農工大学キャンパス点描 (工学部)



昔と変わらぬたたずまい工学部正門



中央広場



科学博物館(旧繊維博物館)

## VIII 尽きない興味

### 1. “湘南ゴールド” 物語

真子 正史 (農学院 S43)

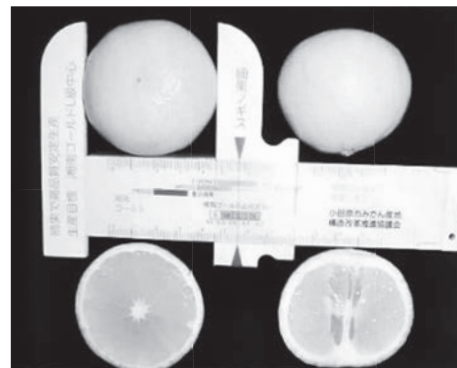
主に3月から4月にかけて、神奈川県を中心に回っている、小さな、手のひらサイズの黄色いオレンジ、これが「湘南ゴールド」である。温州ミカンが市場から消えてくるこの時期に、スカッと爽やかな香りのカンキツとして注目されている。このカンキツは当方が神奈川県農業総合研究所時代に主な担当者として開発した品種である。品種育成の成り立ちから普及・推進を手伝ってきていることもあって、その概略について述べてみたい。

温州ミカンの減反政策の中で、温州ミカンの端境期のカンキツとして、果実は小さいが、香りのよい黄金柑に注目して育種を開始した。1988年に黄金柑に今村温州を交配した中から、手持ちサイズ、剥皮しやすい、香りのさわやかな系統を選抜し、2000年に「湘南ゴールド」として品種登録出願した。スカッと爽やかな、新感覚オレンジとしての評価が得られたので、主にJA西湘を中心に導入された。しかしながら生産者からは樹勢が強すぎる、トゲがある、結果しにくいといった苦情も多くなかなか普及しなかった。当方は2009年にJA西湘から顧問としての指導を委託された。「湘南ゴールド」の生産推進を図るべく、湘南ゴールド技術研究会を立ち上げ、消費者志向に合わせた栽培改善を活動の基本とした。栽培改善を目標に生産者と一緒になってモデル園を設置した。また、目標達成後の組織として販売を主体にした組織、「SG21」を平成27年に設立した。高品質果実の連年生産技術の確立、多様な販売方法と加工品の開発を目標に活動している。このような生産振興に合わせて、神奈川県、全農かながわ、JA、とくにJA西湘を中心にして湘南ゴールド推進協議会が設立され、その実働部隊として「SG21」が力を発揮してきた。また県ではブランド化担当、全農神奈川ではブランド推進課が設立され、各種イベントの開催、加工品の開発に大きな力を発揮してきている。

生産量が100~200t示すようになり、生果としての消費はもとより、スカッと爽やかな香りを利用した加工

品の開発は目覚ましく、飲み物類(ビール、酒、ワイン、サイダー、ジュースなど)、和菓子類(大福、ゼリー、寒天)、洋菓子類(アイス、ゼリー、スイーツ、飴、パン、ドライフルーツ)、料理(ドレッシング、ジャム、漬物、創作料理)、香水など年々増加している。加工用果実の販売額の約50倍の経済効果が推定されており、経済効果も大きい。「湘南ゴールド」の特色の一つとして、機能性成分、とくにアレルギー性鼻炎に効果の高いフラボノンの一種である、ナリルチン含量は飛びぬけて多く、抗酸化活性も高いと言われている。これらを生かした新たな加工品の開発が望まれている。

このように「湘南ゴールド」は県内ブランド商品として生産拡大しているが、生果としては酸含量が高く若者の消費志向には必ずしも合致していない。当方は県、大学を退職後、ミカン園を借りて品質改善の育種を開始し、すでに12年を経過した。たとえ望みはなくてもミカン山への出勤が毎日の楽しみで、今日もせっせと山路を歩み続けている。



湘南ゴールド果実の特徴

### 2. ノーベル賞雑感

横山 定治 (農化院 S46)

西暦2020年のノーベル化学賞はゲノム編集の米仏2女史に決まった。報道各社は当該技術の礎になるCRISPR(Clustered Regularly Interspaced Short Palindromic Repeats)の発見者として石野良純九州大学教授の会見等を取り上げた。最近、日本人の受賞者も

増え身近に賞を感じる人も多くなった。直に接し、バイアス無しに性格、品格、長所、更には瑕疵をも知れば、敬うだけで無く、自分も今にやれるとの意欲が湧くと思う。私は、これ迄に在籍した学舎、企業の関係者がノーベル賞を受賞され、またそれに価値があると評価されるのを聞見した。これらの紹介が、本学の学生、若い研究者の皆様に僅少でも刺激になれば幸甚と考え拙文を寄稿します。

私は1965年に山梨大学工学部発酵生産学科に入学した。2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智先生が1965年まで 故 加賀美元男教授の助手(文部技官)であったことは驚きと共に大きな喜びである。先生は以後、北里大学で多くの抗生物質の発見、応用をされたが、山梨大学学芸学部卒で化学専攻であったのが発酵科で初めて微生物を扱われたことは意義深い。

学部卒業後、私は1969年に農工大農学研究科修士課程に進学した。農芸化学科発酵学研究室で 故 高橋健教授、一島英治助教授(農工大、東北大名誉教授)であった。この研究室に三共(株)から1979年に来られたのが遠藤章助教授(農工大名誉、特別荣誉教授)である。先生は1957年に東北大を卒業し三共発酵研究所で多くの医薬品を発見、製品化されノーベル賞受賞候補と期待されている。発酵学研究室在籍の期間が異なるが、間近に立派な研究者を感じられることは大変嬉しい。

小生の学生時代は回顧すると日本の高度経済成長開始時であり、企業も人材を探していた。そろそろ古里(和歌山県)の近くに帰りたく、1971年に京都の宝酒造(株)に入社して研究所に配属された。文頭に記した石野教授は宝酒造が1979年から開始した制限酵素等の販売が軌道に乗り始めた1983年に大阪大学薬学研究科修士課程修了で入社し、1996年迄在籍した。修論テーマは制限酵素の研究である。入社後すぐに遺伝子工学技術取得の社命で阪大微生物病研究所に出向し細菌遺伝子の解析に参加した(尚、DNA自動分析機の市販は1987年からであり、当時は<sup>32</sup>P使用のtough尚且つdodgyな手作業であった)。最初に述べたCRISPR論文は1987年のJ.BacteriologyのNOTEに掲載された。石野氏は共著者5人のFirst authorでありCorresponding authorは中田篤男教授(阪大名誉教授)である。当人は1986年にDNAリガーゼで学位を得て翌年米国へポスドクとして出かけた。

管見の限り、ゲノム編集技術は2007年のデンマークの乳酸菌発酵企業の研究者(R.Barrangou et.al)による細菌の免疫反応の発見[Science,315,1709-1712(2007)]が嚆矢であろう。彼等は乳酸菌のCRISPRが侵入ウイルスのDNA配列を記憶し、再感染時にウイルスDNAを特異的に切断することを突き止めた。現在、新型コロナウイルスが人類を襲っている。約21億年前に単細胞生物

から分岐&進化した人類がどの時期、如何なる理由でこの抗ウイルス免疫機構を棄てたのかも興味深い。

### 3. ふるさとの偉人

西村 寿(農工 S50)

2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公明智光秀の知行であった丹波地域は、大いに盛り上がった。丹波地域といっても範囲は大変大きく南は摂津、山城、北は若狭、丹後、東は近江、西は播磨、但馬地方で、今の京都府亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市、兵庫県丹波篠山市、丹波市などを含んでいる。

私の住む地域では、明智光秀を主人公にした NHK大河ドラマを地域振興に結びつけようと、かなり前から誘致活動を行ってきたため、大いに期待したが、ドラマに具体的に登場したのは、信長の命を受けて準備にかかった光秀に、岡村隆史さん扮する隠密が「丹波攻略の前に、国衆の小島永明を頼りになさりませ」というシーンだけで、せめて桑子アナウンサーの大河紀行のコーナーにでも取り上げてほしいという期待も虚しくドラマは終了してしまった。ちなみに、私は小島永明の傍系子孫になるらしいので興味があったのだが…。

今の丹波地域に目を向けると、福知山市には、光秀が築城したとされる福知山城の天守が40年ほど前に見事に再建された。光秀とゆかりの深い御霊神社や由良川の氾濫から街を守ったという堤も残っているので訪れる観光客も多い。

綾部市は、日本の近代産業の魁となった繊維会社「グンゼ製糸」の発祥の地である。本学の養蚕や繊維の多くの卒業生がグンゼ製糸(現グンゼ)に就職され会社を支えられてきた。先生方や学生もここでの研修に度々来訪されたと聞く。本学元学長の諸星静次郎博士はグンゼ製糸の蚕桑研究所長から農工大教授に就任された。グンゼ創始者の波多野鶴吉翁については、先年福知山公立大学に赴任された元農工大連合大学院教授の矢口芳生博士の御著書に詳しい。本社機能は現在東京、大阪に移ったが、工場は今も稼働しており、記念館は養蚕、繊維産業の歴史が見学できる。私は京都支部長をグンゼの先輩から引き継いだ。

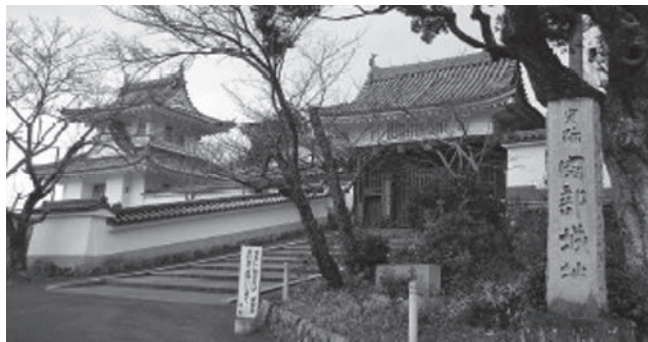
亀岡市には亀岡城(当時は亀山城といった)があったが、大戦前に破壊された。最近、昭和初期に亀岡市出身の並河成資という農水省農業試験場の技術者が、戦後の食糧危機を救ったと言われる米のコシヒカリの親となる農林1号を育成されたということを書物で知っ

た。コシヒカリは農林1号と農林22号の掛け合わせによって耐冷害、短径(耐倒伏)、耐病害、多収、良食味等を受け継いだとされる現在でも多くの農家が栽培する極めて優秀な品種である。ついでだが、並河成資さんが研究に没頭されていた頃、同じ研究者で世界の食糧危機(特にインドやパキスタン)を救い世界の緑の革命を進めたとされる小麦の農林10号(ノーリントンという仲代達矢さん主演の映画にもなった)を育成された稲東権次郎博士がいる。

また、私が農工大に入学した昭和46年に学長をされていた近藤頼巳博士が農林省技官時代に北海道、東北、北陸等寒冷地での安定稲作をもたらした保温折衷苗代(ビニールシートがない時代に油紙で苗を保温することによって冷害を避けた)の技術の確立と普及(発見は長野県軽井沢の農家荻原豊次氏)に尽力されるなど今から思えば当時は作物技術躍動の時代であり非常に興味深い。

最後に、私の住む南丹市園部町にも日本で最後の城とされる園部城がある。戦国時代には明智光秀に従属したが、江戸時代になると小出吉親が但馬の出石(春日局の生地)から移封され園部城を築城した。二重の堀をめぐらせた立派な城であったが、小出氏は外様であったため、戦用の城郭は幕末まで許可されず本格的な築城が小出氏の長年の夢であった。ようやく明治新政府から帝を守護するという名目で城門と巽櫓等(現存)の上棟が叶ったのは明治2年のことであった。

さらに、園部町には気骨の政治家野中広務氏がいる。政治的手腕は、影の総理とまで言われたが、小泉改革の時、郵政民営化に反対して小泉純一郎氏に敗れ下野した。野中氏が京都府土地改良事業団体連合会長(全国会長も長く歴任)時代、私は事務局長としてお仕えしたが貴重な思い出となっている。この頃テレビでよく顔を見る二階自民党幹事長は野中氏の次の全国会長(和歌山県連合会長)であり、西村経済再生担当大臣は兵庫県連合会の会長でもある。



園部城跡で御門と巽櫓(現在は高校)

## 4. 少林寺拳法部OB会「拳友会」の活動ご紹介

間野 大樹 (機シス博 H12)

本会は40数年の歴史を誇る本学少林寺拳法部のOB会です。部を創設した岡部敏弘会長(林産院 S56)を中心として、会員相互の交流を深め、現役の支援に取り組んでいます。秋の学祭では、演武会で現役が修練の成果を披露したのち、総会を開催し、事務局の活動報告に続き、様々な分野で活躍する方々の講演会を行っています。オンライン会議となった2020年度は、ユニークな活動で脚光を浴びている現役と新たな領域でキャリアアップに挑んでいるOBから、以下の興味深いお話をご紹介いただきました。ともに汗を流した皆さまのご参加をお待ちしております。

「“Strecus”ミミズによる炭素の循環型社会の構築」

農学部環境資源学科3年 真砂野 瑠佳氏

2020年、ガーナ人とラオス人の留学生とチームを組み、ハルト・プライズという学生の国際ビジネスプランコンペに出場しました。私たちのチームでは、分別されずに可燃ごみとして捨てられる生ごみに有機資源としての価値を見出しました。生ごみはミミズの分解によって堆肥化するミミズコンポストによって農地へ還り、再び農作物として生まれ変わるという炭素循環型社会についてビジネスプランを立てました。その結果、学内大会を突破し、地域世界大会に出場することができました。地域世界大会に向けては、クラウドファンディングによって活動資金を集めました。この際に、少林寺拳法部の先輩方にも多くのご支援を頂くことができました。

「知的財産 入門編」 飯岡 真吾氏(機シス H17)

1年前に大手自動車メーカーのグループ会社に転職しました。前職までのIT関連の経験を活かし、現在は知的財産管理のシステムを扱う業務を行っています。研究開発で得られた成果は知的財産で保護されることが多いのですが、在学中に知的財産についての知識を深める機会は、そう多くないものと考えております。そこでこれから社会に出る学生さん達に、まずは興味を持っていただくことを目的とし、知的財産とは何か、どんな種類があるのか、具体的な例を交えながら初歩的なお話をさせていただきました。実際の特許侵害による有名な訴訟例や特定企業の商品・サービスにしか使えない登録商標の例を挙げ、知的財産は身近なものであるという認識を持っていただけたのであれば幸いです。



## コロナ禍での卓球部

西 健宏（化学物理工学科 3年）卓球部

同窓生、保護者の皆様方、昨年度の厳しい情勢にもかかわらず、温かいご支援により活動できましたことに感謝し、拙い文章で恐縮ですが、卓球部の活動をご紹介します。

令和2年度は、日本中が新型コロナウイルスによる未曾有の大混乱に陥りました。その影響は部活動の停止、活動時間の大幅な短縮、そして大会の中止など多岐にわたることとなりました。

本来、新入生歓迎時期である4～5月は緊急事態宣言が発令中であったため、歓迎会はおろか、部活動を行うことすらできませんでした。また宣言解除後、6月中頃には大学の警戒レベルが一段引き下げられ活動を再開したものの、未知のウイルスに対する不安から参加する部員はほとんどいませんでした。4月から9月にかけては、私たちの中で目標としている春季、秋季関東学生卓球リーグ戦や全国国公立大学体育大会、東京都国公立大学体育大会などの規模の大きな大会や、東京農工大学と信州大学、京都工芸繊維大学との交流戦である三大織など、イベントが多く予定されていたのですが、非常に残念なことにすべて中止となってしまいました。また例年であれば、9月ごろに開催される秋季関東学生卓球リーグ戦をもって3年生が引退することとなっていたのですが、中止されたことで当時の3年生は最後の大会を終えることなく引退する、という無念やるかたない結果となってしまいました。

10月からは代替わりを経て、新卓球部として活動していくことになったのですが、やはり大学の警戒レベルは1を下回りませんでした。そのため、通常であれば1回の部活動で3時間の活動時間であったのに対し、1時間半という短い時間しか活動できませんでした。さらに卓球はどうしても多くの道具に触れるスポーツであるために、消毒に多くの時間を要し、準備片付けを除いて実際に卓球ができていた時間は1時間弱程度しかありませんでした。満足のいくメニューをこなすことができないことにすべての部員が割り切れない思いを抱いていました。

毎年11月には農工大学の学園祭と同時に、農工大卓球部主催の卓球大会が開催されていたのですが、これもやはり中止となりました。卓球部の活動資金の多くはこの大会から得ていたということもあり、昨年度は財政的に大打撃を受けました。このことで、当時部内で提案されていた市民体育館などで少ない練習時間を補う、という案は実現できなくなりました。制限された短い時間の中でも、できるだけ質を上げるように工夫しながら全員で頑張っていた中、追い打ちをかけるように2回目の緊急事態宣言が発令されました。延長に次ぐ延長により、結局1～3月はすべて部活動を行うことができませんでした。

以上が昨年度の活動内容です。昨年度は農工大卓球部史上最も苦難に満ちた一年であったと確信しています。今年度こそは、と強く思っておりますが6月中旬の現在、機も悪く、去年同様にまともに新歓ができていないのが現状です。ワクチンが徐々に普及していることに期待しつつも、しっかりと感染対策を行い、これまで以上に邁進してまいります。同窓生、保護者の皆様方には応援していただけると幸いです。



## 手探りのサークル活動

國友 紀孝（応用化学科 3年） 将棋部

農工大将棋部は、将棋が好きな部員が集まるアットホームな部活です。将棋部が主に出場している大会は、関東大学将棋連盟が主催する春と秋の団体戦のリーグ戦です。リーグは、上のクラスからA級、B1級、B2級、C1級、C2級と分けられていて、農工大将棋部は、現在真ん中のB2級に所属しています。B1級やA級といった上のクラスに上がることができるように、部員一同は、小金井キャンパス管理棟の北側にあるサークル棟の一室で、対局や戦法などの研究に励んでいました。しかし、昨年は、新型コロナウイルスの影響があり、部室を用いた活動も制限されたり、リーグ戦が中止となったりしました。



大学で活動ができなくなった後、部員同士で話し合いを行い、オンライン会議サービスのZoomと「将棋ウォーズ」や「将棋倶楽部24」などの将棋アプリを用いた活動を始めることにしました。活動をやる前は、部活動としてちゃんと成立するのか不安でしたが、いざやってみると、予想していた以上の濃い活動ができました。これは、対局者それぞれの頭脳で考えた思考をぶつけ合うことが出来る将棋盤と駒があれば将棋というゲームは成立するからだと思います。その後、オンラインでの活動を週1回程度の頻度で定期的に行っています。


活動は、大体午後7時から始まります。集まった人同士で対局相手を決め、「お願いします」という挨拶で将棋が始まると、どうやれば理想的な攻撃をすることが出来るか、相手の攻めを適切に受け止めることが出来るかを真剣に考え、次に指すべき手を交互に指していきます。このように対局者が全力で考え抜いた1手1手が積み上げられた将棋は、最後の1手までどちらが勝つか予想できない白熱した勝負になることが多いです。将棋が終わると、画面共有の機能を使って、部員全員で1局の将棋を初手から1手ずつ振り返る感想戦を行います。感想戦では、良かった手や悪かった手を探したり、対局中に考えた手であるが、実際には指さなかった手を選択したらどういう結末になるかを検討したりします。勝敗を分けるような難解かつ複雑な局面では、特に多くの考えが提案され、その一つ一つをじっくりと吟味するので、とても活気のある議論になります。近年、AIはトップ棋士と同レベルの棋力を所有するようになり、実際に部活で行った将棋をAIで分析してみると、対局者とは異なる形成判断、人間には気づかない手、気づいたとしても人間では指すことができない斬新な手が見つかり、驚かされることが多いです。こんな感じで白熱した将棋を指し、なかなか答えが見つからない議論に熱中していると、あっという間に午後9時くらいになり、部活動が終わります。

時の流れは速いもので、オンラインでの活動を始めてからすでに1年が経ちました。そして、将棋が好きな1年生数人が入部してくれました。最近、1年生と話をしていると「早くサークル棟で活動したいです」ということを聞きます。1年生の言葉の通り、コロナの流行が早く収まり、サークル棟で、先手後手を決めるための振り駒の結果に一喜一憂し、将棋盤を挟んで将棋を指し、その将棋盤を部員で取り囲んで議論する活動を再開することができることを切に願っています。また、いつになるか分かりませんが、機会があれば、小金井キャンパスの合宿所での合宿を行えたらいいなと思っています。将棋部のOBの皆さんの参加、心から楽しみに待っています。


最後になりましたが、2020年度、将棋部は同窓会の学生援助事業から課外活動援助金をいただきました。戦法書か、質の良い将棋盤を購入したいと思っています。本当にありがとうございました。

「自分の子どもに  
食べさせたい  
豆腐を作ろう。」

そんな思いから30年  
国産大豆100%、にがり寄せ  
消泡剤不使用にこだわります。




豆腐という概念に  
こだわらず  
豆腐を食べてもらいたい…






大豆、豆腐、おから、  
豆乳の加工品アイテム数  
国内1位

豆腐・油揚げ・がんも・生揚げ・豆乳・湯葉・大豆製品  
きらず揚げ・おからパン・豆乳プリン・豆腐ドーナツ・大豆惣菜



〒444-1304 愛知県高浜市豊田町1丁目204-21  
TEL:0566-54-0330(代) FAX:0566-54-0331  
直営店舗「とうふや豆蔵」「おとふ湯葉いしかわ」  
愛知・岐阜・三重・関東  
34店舗展開  
<http://www.otoufu.co.jp>

# PARTY PLAN

忘年会・新年会・歓送迎会・同窓会・謝恩会など  
各種パーティーのご用命はサンゲリアへ

感染症対策をし、お客様にふさわしい雰囲気  
おいしい料理と楽しいお酒を  
ご要望に合わせたスタイルでご調整いたします  
お弁当・TAKE OUT BOXも承っております

〒180-0027 府中市本町1-1-7  
TEL 042-368-6368  
MAIL info@santgria.jp  
HP santgria.jp





## アペリティーボ

ひとりで気楽に、友人や家族と  
しませんか？

**Aperitivo?**  
アペリティーボとは？  
夕食前や帰宅前にお気に入りのお店で  
軽食とお酒を楽しむイタリアの習慣です。

ワインをはじめ、様々なお酒に合うオードブルを  
各種ご用意しております。  
ご帰宅前に気軽に一杯いかがですか？  
お好みのオードブルを、お一人様ずつ  
プレートにご用意いたします。



Close: 22:00 (L.O.21:00) 定休日：火曜日  
Tel: 042-368-6368 Address: 府中市本町1-1-7



[santgria.neu](http://santgria.neu)



な ん と か な る<sup>®</sup>

詳しくは  
「井口一世」で検索してください。

## 新型コロナウイルス感染症に伴う 東京農工大学基金へのご支援について

同窓会事務局長 池谷 紀夫

農工通信101号にて引き続き新型コロナウイルス感染症に伴う東京農工大学基金へのご支援をお願いしたところ、多くの方々からのご寄附をいただきました。令和3年5月から9月末の状況を大学からいただきましたのでご報告いたします。

### 「東京農工大学基金」寄附者一覧

ご寄附を賜りましたみなさまのご芳名を深い感謝とともに掲載させていただきます。

同窓生、在校生・そのご家族、元教員(50音順、敬称略)  
令和3年9月末現在

足立 昌光	宇佐美宏行	神田 尚俊	鈴木 伸栄	永井 昌史	久富 東弥	村山 健
阿部 大如	瓜生 虔二	菊地 栄至	鈴木 能大	中澤 健雄	人見 達雄	茂木 佳奈
天野 典英	王 文輝	木曾 三郎	須田 廣勝	永田 耕司	平塚 貴子	本橋 茂之
新井 紀子	大久保 剛	久野 叔彦	須藤 一郎	中西 亮	平野美奈子	森田隆太郎
荒井 芳文	大高とし子	熊坂 治	住本 敏泰	中村 圭一	比留間藤郎	森谷 吉久
飯島 昌子	大竹 秀晴	河野 詠	高田 真理	中村 信一	広瀬 末広	八重樫弘信
五十嵐由幸	大伴 秀郎	小杉純一郎	高橋 一重	中村 正行	藤本 和弘	安井 智仁
井川 健二	大平 克彦	小平 紀肇	高橋喜久男	中谷 浩	藤森 英明	安威 誠
池田 厚	小笠原敏行	小林 生男	高橋 豪	流 太郎	本多その子	安川 一
池田 裕治	荻田 博文	五明 峻	田上 将治	那須 幸義	増淵 敦彦	山口 重利
石井 葉子	尾崎 浩司	境田 惣一	瀧戸 裕一	檜山 絵麗	益満 宏行	山下 豊文
石川 文武	小澤 孝夫	佐光 俊樹	立場 秀樹	新居田大祐	真瀬 昌司	山田 晃
石本 隆英	小澤 孝徳	佐々木満恵	田中 二郎	西川 勝	町田千恵子	山中 芳樹
市川 裕之	梶 光一	佐々木 亮	田中 康晴	西田 和彦	松本 理	ヨーク弘美
一島 英治	片岡 弘毅	佐治 領一	谷 英林	西田 聡	松山 周行	吉田 朗
一蝶 彬	加藤 清	佐藤 敬一	谷口 準	西丸 健	溝口 達也	吉田 満
出原 敬宏	加藤 幸彦	澤井 祐子	田原 義則	西村 寿	三宅 一生	依田 義人
井戸 清智	加部 利明	椎名 靖	玉村 静世	西森 洋介	宮嶋 敦	米倉 正直
伊藤 和子	上浦 良雄	志賀 直仁	塚田 浩徳	根岸 大輔	宮田 保彦	渡邊 正敏
伊藤 勝規	亀井 實	信太 秀紀	土村亜弥美	野田 敬介	宮原 典弘	
伊藤 岳洋	苧谷 典昌	島影久太郎	椿山 佳明	橋本 裕	宮本 幸宏	
今市 忠志	河合顕太郎	菅原 寛	鶴田 欣則	橋本 祐也	村上 茂泰	
上野 真生	川島幸之助	菅原 靖	寺久保之敏	花輪 正明	村上 博史	
魚澤 孝文	河田 直彦	鈴木 朋子	寺田 章三	日浦 克彦	村田 稔	

## (一財) 東京農工大学教育研究振興財団の解散にあたり

同窓会理事長 桑原 利彦

(一財)東京農工大学教育研究振興財団(旧東京農工大学後援会)は令和3年3月31日をもって解散いたしました。

旧後援会は、同窓会からの寄附金48,000千円と特別賛助会費等により、設立時基本金と運営資金を準備して、昭和54年1月に当時の文部省から認可を受け東京農工大学への寄附をスタートさせました。

その後、募金活動等により財務基盤を強化させ、平成19年4月に(財)東京農工大学教育研究振興財団と改称し、さらに平成24年3月に一般財団法人として認可され、後援会時代も含めて東京農工大学に約762,535千円の寄附をいたしました。

財団の役割を包含する形で平成25年9月に設立された「東京農工大学基金」が軌道に乗ってきたことからその役割を終えて解散に至りました。

財団の解散手続きをする過程で我が同窓会に令和3年2月に134,000千円、令和3年7月に921,544円のご寄附をいただきました。

財団からは、「東京農工大の学生の諸活動に対する各種援助事業並びにそれに必要な貴法人の事業に役立てて頂きたい」というご要望がありましたので、今後特定目的事業財産の学生援助事業費として別途経理して、現役学生の支援に役立てていく計画です。

財団の運営に携わってくださった方々や、経済的基盤を支えてくださった同窓生や賛助会員の皆様に、深く感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

## 東京都支部から

同窓会東京都支部  
副支部長 稲田 真樹子(自然院 H19)

新年あけましておめでとうございます。

馬場会長、畠山副会長の後を受け、栗原・稲田の体制となって2年目、少しずつ新しい試みを始めています。今春には同窓会事務局長の交代がございます。東京農工大学同窓会をご牽引された池谷様のご尽力に感謝申し上げますとともに、新体制となる東京農工大学同窓会の今後の益々のご発展を祈念申し上げます。

### ●2021年の活動実績

2021年は、年初から緊急事態宣言のもと、皆で力をあわせた新しい生活様式でのスタートとなりました。新型コロナウイルス感染症対策という観点から当支部でも活動の在り方を見直し、今まで「けやき倶楽部」等で行っていた集まりを、Zoomを用いたオンラインミーティングに切り替えました。

移動時間を伴わず、場所の制約を受けないことから、対面での会合を実施していた時と比較して、より多くの参加者が集まれるようになりました。今後も2ヶ月に1度のペースでオンラインミーティングを実施してまいります。

次に、2020年1月に設立いたしました、東京都支部のホームページ(<http://tuat-reunion.tokyo/>)のさらなる充実化に取り組みました。役員交代や支部総会等のイベントの告知だけでなく、様々な面で活躍している同窓生を定期的に紹介する取り組みを始めました。仕事だけでなく、地域のボランティア活動や趣味の活動など、様々な面でいきいきと活動する同窓生を紹介することで同窓生のネットワークの強化・拡充をこれからも図る所存です。

最後に、昨年6月26日(土)に初めてのオンライン支部総会を実施いたしました。今後も、効率的かつ皆が参加しやすい支部総会の開催を続けてまいります。

### ●2022年の活動予定

2022年は2021年から始めた取り組みを継続するとともに、同窓生の交流会を計画してまいります。新型コロナウイルス感染症の収束が前提ですが、東京農工大学工学部発祥の地である帝国ホテルにおいて、「実際に会う」ことで同窓生の交流をより活発にしていきたい所存です。詳細につきましては、東京都支部ホームページに掲載いたしますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

これからも、同窓会の伝統を守りながら、支部会員相互の情報発信・交換・交流を通じて東京都支部の新たな活性化、同時に母校の発展に貢献してまいります。

本年もよろしくお願い申し上げます。

# 事務局だより

## 1. 会費納入のお願い

同窓会はみなさまからの会費で支えられています。  
本会の維持・活動のために会費納入にご協力をお願いいたします。会費は次の通りです。

1. 終身会費 30,000円／70歳以上 10,000円
2. 年会費 1,500円 (年会費は年度4月～3月を1年としています。)

同封の払込票にて、上記いずれかの金額を納入してください。会費を納めていただくと「正会員」になります。

◇農工通信に払込票が同封されていない方は納入済です。 ◇過去に遡って納入の必要はありません。  
※11月中旬時点のデータに基づいておりますため、行き違いで既にご入金いただいておりますらご容赦ください。  
◇新たに70歳以上の会員が終身会費(10,000円)を納入する場合は、払込票に生年月日をお書き添え下さい。

## 2. 「本学学生への就職支援」就職先情報提供のお願い

就職支援の一環として、就職活動中の在学生に対し、みなさまの勤務先と氏名の情報提供をしております。就職先情報の提供を希望しない場合は、同窓会ホームページ「会員情報」または、同封の「住所・勤務先変更連絡票」にて同窓会事務局までお知らせください。ご連絡がない場合は了承されたものとして、就職情報を在学生に提供させていただきます。なお、過去にお知らせいただいている情報提供の可否に変更がない場合は、改めてご連絡いただく必要はありません。

## 3. 住所等の変更について

農工通信は、ご登録いただいているご自宅住所にお送りしております。転居等で住所等、登録内容の変更があった場合は、同窓会事務局までご連絡願います。登録内容の更新・変更は、同窓会ホームページからお手続きができます。なお、同窓会が保有している会員の個人情報の公開については、ご本人の意向に沿って管理・運営し、個人情報保護には万全を期しております。



## 4. 会員情報提供について

平成22年5月『同窓会会員名簿』発行の廃止に伴い、個人情報の提供につきましては、部会・支部・クラス会からの依頼により、従来の会員名簿に替わるサービスを行っております。詳しくは同窓会ホームページ「入会・会員情報」の「会員情報提供について」をご覧ください。



## 5. 「農工通信」は来年度より年1回8月発行になります。

「農工通信」は平成24年度から年2回の発行を続けてまいりましたが、近年単年度ベースでは赤字財政になっていることをうけ、令和4年度から年1回8月発行といたします。「農工通信」とは別に、ホームページを利用したWEBによる情報発信をしていきます。

## 6.「農工通信」寄稿 随時募集！

寄稿内容は自由です(例:随想、近況報告、研究紹介、仕事に関すること等)。また「農工通信」に掲載する写真や絵、イラストも募集しています。みなさまのご寄稿・作品をお待ちしています！

① 一般寄稿:文字数 800 字～1000 字程度(写真 1 枚) 2 月末までの到着分を 8 月の農工通信に掲載します。

例)令和 4 年 2 月末分→令和 4 年 8 月号掲載

② クラス会報告:300 字程度(写真 1 枚)同窓会HP「クラス会だより」に掲載後、農工通信に掲載

③ 画像作品(写真や絵画等):表紙や挿絵に使用します。※採用の際はご連絡いたします。

・送付先email:tushin@tuat-dousoukai.jp 同窓会事務局「農工通信」宛

\* 郵送の場合は応募の原稿、写真等は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。



## 編集後記

農工通信は、2013 年度より年 2 回(前期号、後期号)発行されてきました。私共(OB)が後期号の編集を担当し、84 号から 102 号(1 回/年)までの後期号 10 号を発行しました。

後期号には同窓諸兄の近況・随筆、ご意見・ご提案、大学時代の思い出等を頂戴し、同窓諸兄間の絆を強めるために、非力ながら寄すべく努力したつもりです。

財政難による後期号の発行中止は大変残念です。今後の農工通信(1 回/年)にも同窓諸兄の寄稿にできる限りのスペースを捻出させていただきますようお願い申し上げます。

深水 智明(織工 S38)

編集委員を務めてきましたが、実は私は専攻とは全くの別世界、出版社に職を得て過ごしました。子供雑誌、芸能誌、漫画誌の編集者を歴任、その後は人事や法務、最後は危機管理担当でした。

こんな経歴から、編集委員へと推挙されたのだと思います。委員の職責の一つといえば投稿を何べんも読むこと。その喜びは、各世代の卒業生の活躍ぶり、大学で身に着けた糧を活かされた生活のご様子をいち早く知ることでした。農工大の世界とは無縁であるかのような仕事を続けた私ですが、編集に携われて母校のありがたさを実感できました。大感謝です。

大亀 哲郎(農工 S46)

ふと思い立って古い後期号から順に読み返してみました。様々のご意見、経験、思い出、近況が満載で、非常に興味深くまた楽しく読むことができました。これは農工大卒業生の、生の声満載の貴重な資料であり、東京農工大学の雰囲気色が濃く漂っている寄稿文集です。これからは年 1 回の発行となりますが、“農工大らしさ”を大事にして、農工通信を長く続けて頂きたいと願っています。

橋本 裕(林産 S47)

今回の 102 号をもって同窓生の寄稿集である後期号が終了し、来年度から農工通信は年 1 回の発行となります。後期号の始まった 84 号から 102 号迄のこの 10 年間を振り返ってみますと、学科の同期や同じ部活の仲間等との絆の強さを感じさせる原稿が多く寄せられていました。例えば、卒業後数十年間毎年クラス会を開いたり、部活の OB 会を作り、定期的にイベントを開催する等々、学生時代に築いた友情は何年たっても変わらない様子が、それぞれの原稿誌面から窺えます。“やはり大学時代の仲間はいいな”と、自分の学生時代を思い出しながら編集しています。

金子 由実(織高院 S53)

## 農工通信 第 102 号

発行日 令和 4 年(2022 年)1 月 1 日

発行所 一般社団法人 東京農工大学同窓会

連絡先 〒183-8538 東京都府中市晴見町 3-8-1 (一社)東京農工大学同窓会事務局

TEL 042(364)3328 FAX 042(335)3500

e-mail info@tuat-dousoukai.jp URL <https://tuat-dousoukai.org/>

振替口座 00120-8-265877 番 加入者名 一般社団法人 東京農工大学同窓会

印刷所 株式会社 マイナビサポート

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-23-1 アセンド神保町 7F

本学では、農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター(FSセンター)で栽培した原料(米・芋・麦)をもとに製造した農工大ブランドの本格焼酎「賞典禄(しょうてんろく)」を販売しています。



お中元、お歳暮、贈り物に最適  
部会、支部会、同窓会でも  
ぜひ賞味下さい。

酒類販売管理者標識	
販売場の名称及び所在地	東京農工大学農学部フィールドサイエンスセンター 東京都府中市幸町3-5-8
酒類販売管理者の氏名	本 林 隆
酒類販売管理研修受講年月日	令和2年9月29日
次回研修の受講期限	令和5年9月28日
研修実施団体名	一般社団法人 日本ボランティアチェーン協会



米焼酎

芋焼酎

麦焼酎

長期貯蔵酒(米)

## 賞典禄 FAX 注文票 以下のとおり注文します。

東京農工大学 FS センター 宛 FAX : 042-367-5801

【ご注文内容】		年	月	日
長期貯蔵酒 米焼酎 (1,800 円) 40度 720ml	本	米焼酎 (1,500 円) 25度 720ml	本	
焼酎 米・芋・麦3種セット (4,200 円) 25度 720ml×3	セット	芋焼酎 (1,500 円) 25度 720ml	本	
		麦焼酎 (1,500 円) 25度 720ml	本	
合計注文金額			円	

【ご注文者様情報】	
お名前	フリガナ
住所	〒
電話番号	FAX 番号
生年月日	T.S.H 年 月 日

※年齢確認をさせていただく場合がございますのでご了承願います。

- 【ご注意】
- ※1 お支払いは代金引換またはクレジットカードになります。詳しくは下記 URL をご覧下さい。ただし、FAX でご注文された場合のお支払いは、代金引換のみとなりますので、ご注文者様以外への配送は致しかねます。
  - ※2 ご注文いただいた上記金額の他に、送料 (5,000 円以上は無料) 及び代金引換手数料 (代金引換額に応じた所定の金額) が必要になりますので、予めご了承願います。
  - ※3 本注文票により収集された個人情報、賞典禄の販売以外の目的には使用いたしません。

ネットショップ : FS センター農工夢市場ネットショップ

<http://www2.enekoshop.jp/shop/noukoudai/>



問い合わせ先

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター事務室

TEL042-367-5811